

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第448集

ひらくらかんのん

# 平倉観音遺跡発掘調査報告書

県営ほ場整備猫川左岸地区工事関連遺跡発掘調査

岩手県遠野地方振興局農政部農村整備室

(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第448集  
平倉城音遺跡発掘調査報告書 正誤表

頁	行(位置)	誤	正
4	地形図名(右下)	5万分の1地形図	5万分の1地形図 遠野
8	土層図の名前	調査区北南側	調査区北・南側
14	19	一行が抜けている	また、▽は断面の位置を示している。

ひら くら かん のん

# 平倉觀音遺跡発掘調査報告書

県営ほ場整備猫川左岸地区工事関連遺跡発掘調査

## 序

四国四県に匹敵する広大な面積を有する岩手県は、埋蔵文化財の宝庫として知られており、その包蔵地の数は1万箇所を超えるとも言われております。これら先人達が遺した貴重な文化遺産を保護し、後世に伝えていくことは我々に課せられた責務であります。

一方、農業基盤整理や幹線道路網の整備など、社会资本の充実を図ることもまた行政上の大事な施策であり、そのため埋蔵文化財の保存・保護のもとに調整・調和のとれた地域開発を推し進めることが今日的な課題であります。

このような観点から、財團法人岩手県文化振興事業団では埋蔵文化財センターの創設以来、埋蔵文化財保護の立場にたって、県教育委員会生涯学習文化課による調整と指導のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅していく遺跡について発掘調査を行い、その記録を保存する措置をとってまいりました。

本書は、県営ほ場整備貓川左岸地区整備事業に関連して、平成14年度に行われた遠野市に所在する平倉遺跡の調査結果について収録したものであります。

調査の結果、弥生時代の遺物を主体とした遺跡包含層等が検出され、そこから弥生土器等の遺物が出土しております。

この報告書が広く活用され、斯学の研究に寄与するとともに埋蔵文化財に対する関心と理解をいっそう深めることに役立つことを切に希望いたします。

最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成に協力とご支援を賜りました岩手県遠野地方振興局農政部農村整備室、遠野市教育委員会をはじめとする関係各位に衷心より感謝申しあげます。

平成15年11月

財團法人 岩手県文化振興事業団  
理事長 合 田 武

## 例　言

1. 本報告書は、岩手県遠野市上郷町平倉第47地割字鏡音21番地ほかに所在する平倉鏡音遺跡発掘調査結果を収録したものである。
2. 本遺跡の発掘調査は、県営は場整備鶴川左岸地区工事関連事業に伴い、岩手県教育委員会生涯学習文化課・岩手県遠野地方振興局農政部農村整備室の協議を経て、鶴岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（以下埋文センターと略称）が記録保存を目的として実施した緊急発掘調査である。
3. 今回の発掘調査による成果は平成14年度の岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第423集「岩手県埋蔵文化財発掘調査略報」にて公表してきたが、本書が公式な報告書であるので、上記の刊行物との違いがある場合は、現時点では本書が正しいものとする。
4. 岩手県遺跡登録台帳番号と調査時の遺跡各次略号は、以下のとおりである。.

遺跡登録台帳番号……MF 66-1099

遺跡略号……………HKN-02

5. 野外の調査期間・調査面積と調査担当者は、以下のとおりである。

調査期間　平成14年4月8日～5月31日

調査面積　2,600m<sup>2</sup>

担当者　島原弘征・太田代一彦

6. 調査の室内整理期間と整理担当者は、以下のとおりである。

整理期間　平成14年11月1日～平成15年3月31日

担当者　島原弘征・太田代一彦

7. 本報告書の原稿執筆は、I章の調査に至る経緯を岩手県遠野地方振興局農政部農村整備室、他を担当者が分担してを行い、島原以外の担当者が執筆した部分の文末には執筆者名を記している。編集は島原が行った。

8. 座標原点の測量および空中写真撮影は、次の機関に依頼した。

座標原点の測量……鶴来池技研コンサルタント

9. 自然科学関連の分析は、次の機関に依頼した。（敬称略）

石質鑑定……………花崗岩研究会

10. 本報告書の作成にあたり、次の方々ならびに機関からご指導とご協力をいただいた。（敬称略）

遠野市教育委員会、小向裕明、佐藤浩彦、日下和寿、高瀬克範

11. 野外調査にあたっては、遠野市内の方々に多大なるご協力をいただいた。

12. 土層観察の土色は、『新版標準土色帳』（小山正忠・竹原秀雄：1992）によった。

13. 本報告書で使用した地形図は、国土地理院発行のものであり、図中に図幅名と縮尺を記している。

14. 本遺跡から出土した遺物および調査に関わる資料は、岩手県立埋蔵文化財センターに保管・管理している。

# 目 次

序

例言

## 〔本 文〕

第Ⅰ章 調査に至る経緯	1
第Ⅱ章 遺跡の位置と周辺の環境	2
第1節 遺跡の位置と周辺の地形	2
第2節 遺跡の概観	2
第3節 基本層序	7
第4節 周辺の遺跡	7
第Ⅲ章 調査の概要と整理方法	12
第1節 調査経過	12
第2節 野外調査の方法	12
第3節 室内整理の方法	14
第Ⅳ章 検出遺構と出土遺物	16
第1節 検出された遺構	16
(1) 土坑	16
(2) 遺物包含層	19
(3) 柱穴状土坑	19
第2節 出土遺物	29
第Ⅴ章 まとめ	62
報告書抄録	
職員一覧	

## 〔図 版〕

第1図 岩手県全図	3	第19図 遺構外出土遺物(土器2)	32
第2図 遺跡の位置図	4	第20図 遺構外出土遺物(土器3)	33
第3図 周辺地形図	5	第21図 遺構外出土遺物(土器4)	34
第4図 周辺の地形と調査範囲	6	第22図 遺構外出土遺物(土器5)	35
第5図 基本土層柱状図	8	第23図 遺構外出土遺物(土器6)	36
第6図 周辺の遺跡分布図	10	第24図 遺構外出土遺物(土器7)	37
第7図 グリッド配置図	12	第25図 遺構外出土遺物(土器8)	38
第8図 遺構配置図	15	第26図 遺構外出土遺物(土器9)	39
第9図 S K01・02・06土坑	17	第27図 遺構外出土遺物(土器10)	40
第10図 S K05・07・08・09上坑	18	第28図 遺構外出土遺物(土器11)	41
第11図 遺物包含層平面図・分布図	20	第29図 遺構外出土遺物(土器12)	42
第12図 遺物包含層南北ベルト断面	21	第30図 遺構外出土遺物(土器13)	43
第13図 遺物包含層東西ベルト断面	22	第31図 遺構外出土遺物(土器14)	44
第14図 柱穴状土坑(1)	23	第32図 遺構外出土遺物(土器15)	45
第15図 柱穴状土坑(2)	24	第33図 遺構外出土遺物(土器16)	46
第16図 柱穴状土坑(3)	25	第34図 遺構外出土遺物(陶磁器)	47
第17図 柱穴状土坑(4)	26	第35図 遺構外出土遺物(石器類1)	48
第18図 遺構内・外出土遺物(土器1)	31	第36図 遺構外出土遺物(石器類2)	49

## 〔 表 〕

第1表 周辺の遺跡一覧表	11	第6表 円盤状土製品観察表	60
第2表 柱穴状土坑観察表(1)	27	第7表 土偶観察表	60
第3表 柱穴状土坑観察表(2)	28	第8表 陶磁器観察表	60
第4表 柱穴状土坑観察表(3)	29	第9表 石器観察表	61
第5表 土器観察表	50	第10表 土坑一覧表	62

## 〔写真図版〕

写真図版1 調査前風景・調査終了全景	65	写真図版11 遺構外出土遺物(土器3)	75
写真図版2 土坑(1)	66	写真図版12 遺構外出土遺物(土器4)	76
写真図版3 土坑(2)・遺物包含層	67	写真図版13 遺構外出土遺物(土器5)	77
写真図版4 遺物包含層南北ベルト断面(1)	68	写真図版14 遺構外出土遺物(土器6)	78
写真図版5 遺物包含層南北ベルト断面(2)	69	写真図版15 遺構外出土遺物(土器7)	79
写真図版6 遺物包含層東西ベルト断面	70	写真図版16 遺構外出土遺物(土器8)	80
写真図版7 柱穴状土坑	71	写真図版17 遺構外出土遺物(土器9)	81
写真図版8 旧河道	72	写真図版18 遺構外出土遺物(土器10・陶磁器・石器)	82
写真図版9 遺構内外出土遺物(土器1)	73		
写真図版10 遺構外出土遺物(土器2)	74	写真図版19 遺構外出土遺物(石器2)	83

## 第Ⅰ章 調査に至る経緯

平倉観音遺跡は、「ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）猫川左岸地区」の施行に伴って、その事業区城に位置することから発掘調査することとなったものである。

当事業は、遠野市上郷町地内の受益面積91haの地区で、水田は昭和30年代に一部10a区画に整理されたが、区画状況が小さく農道の幅員も狭い状況であった。

又小用水路は土水路で漏水し、用水不足を補うために小排水路は用排兼用で浅く、排水不良となって溝化しているなど、営農の機械化、耕地の汎用化、さらには農地の流動化、生活環境の向上など、高生産性農業を阻害していた。

これらの阻害要因を除去し、効率的で安定的な経営体に農地を集積し、高生産性農業の確立を図り、併せて農村環境水準の向上を図るために、大区画ほ場整備を実施するものとして、平成10年度新規採択された地区で、平成14年度で5年目である。

当事業の施行に係る埋蔵文化財の取扱いについては、岩手県遠野地方振興局農政部農村整備室から平成11年3月9日付け遠農整第539号「県営ほ場整備事業実施に伴う遺跡分布調査について（依頼）」の文章によつて岩手県教育委員会に対して分布調査をしたのが最初である。

依頼を受けた岩手県教育委員会では、平成11年5月17日～19・24日調査を実施したが、その結果は平成11年6月8日付け教文第261号「県営ほ場整備事業実施に伴う遺跡分布調査について（回答）」で岩手県遠野地方振興局農政部農村整備室へ回答し、その際工事施工範囲内が平倉観音遺跡の範囲内であることが付記された。

回答を受けた岩手県遠野地方振興局農政部農村整備室では、平倉観音遺跡を平成13年10月12日付け遠農整第606号「ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）猫川左岸地区における埋蔵文化財の試掘調査について（依頼）」の文章によって岩手県教育委員会に対して、試掘調査を依頼した。

依頼を受けた岩手教育委員会では平成13年11月5日～7日に試掘調査を実施したが、その結果は平成13年12月5日付け教文第1254号「ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）猫川左岸地区における試掘調査について（回答）」で岩手県遠野地方振興局農政部農村整備室へ回答し、その際平倉観音遺跡の発掘調査が必要である旨が付記された。

(岩手県遠野地方振興局農政部農村整備室)

## 第Ⅱ章 遺跡の位置と周辺の環境

### 第1節 遺跡の位置と周辺の地形

平倉観音遺跡は、岩手県遠野市上郷町平倉74地割ほかに所在する。遺跡は北緯39度16分46秒、東経141度35分00秒付近に位置する。本遺跡はJR釜石線岩手上郷駅から南南西約0.5km、仙人峠から西流する早瀬川右岸の谷底平野に面した河岸段丘上に位置する。遠野市は北側に川井村・大迫町、東側に釜石市・大槌町、南側に住田町・江刺市、西側に宮守村・東和町が隣接している。人口は約27,000人で、市街地は中起伏山地に囲まれた遠野盆地と呼ばれる谷底平野に位置する。

北上山地のほぼ中央に位置する遠野盆地は、南北30km、東西20kmにも及ぶ北上山地最大の盆地であり、猿ヶ石川流域の谷底平野と開析扇状地が主なものである。北方には北上山地最高峰の早池峰山を望み、盆地周囲の六角牛山(1,294m)・石上山(1,038m)・薬師岳(1,644m)・高清水山(797m)・物見山(917m)・責任山(886m)等の山々や、市内を流れる猿ヶ石川・小鳥瀬川・早瀬川等の河川により盆地が形成されている。盆地の縁辺部は標高1,000m前後の山地が囲んでおり、盆地底の沖積面は標高250~300mを測る。山地を除くと、この盆地は、大別して四つの地形面からなり、上位の地形面から見てみていくと、最初に盆地を囲む山麓緩傾斜面上に展開する標高300~400mの高位の緩斜面、次に250~300mの低位の緩斜面、さらに盆地底の沖積面より約5m程高い遠野段丘と呼ばれる河岸段丘が盆地内の河川沿いに形成され、最後に現河川沿いに、河床面との比高1~5mを測る沖積面とに区分される。本遺跡南を流れる早瀬川は上郷町の平野原・宇南林一帯で扇状地を発達させ、周囲の谷底平野との間に若干の比高差をもつ。

遠野盆地は花崗岩の分布域で、遠野花崗岩が主に盆地に分布している。この花崗岩は深層風化が進み砂質化している。盆地東縁及び西縁においては、古・中生界の粘板岩・石灰岩・輝緑巖灰岩等も分布している。盆地北部・東部の一部の更新世層には橙色~赤褐色の風化火山灰が分布するが、噴出源については不明である。早瀬川両岸の沖積地には広く砂礫層が堆積している。

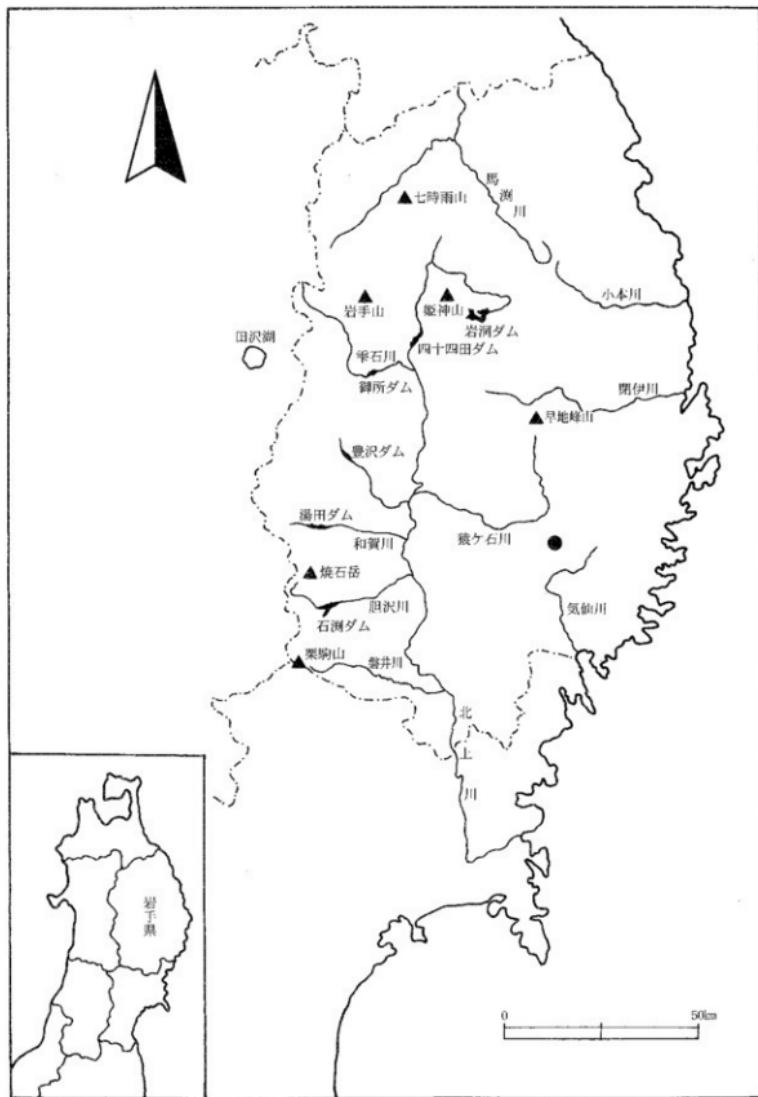
(太田代)

### 第2節 遺跡の概観

平倉観音遺跡は北上山地最大の盆地である遠野盆地の南東側に位置している。早瀬川とその支流である猫川との間に、これらの河川の開析によって形成された標高約440mの独立丘陵がある。この丘陵の南から少し張り出した、谷底平野に面する早瀬川右岸の河岸段丘上に遺跡は立地している。周囲の谷底平野・河岸段丘は、仙人峠の若木沢付近を水源として東から西に流れる早瀬川によって形成されたものである。

本遺跡の南には早瀬川が流れ、川の両岸には水田が広がっている。遺跡の北西には、慈覚大師が創建したものと伝えられる遠野七觀音の一つである平倉観音が安置されているお堂が丘陵中腹に隣接している。また、この丘陵山付近には中世城館跡の刀金館が位置する。遺跡北側の丘陵は中生代層の花崗岩質岩石を主体としており、軟質部が露出している。

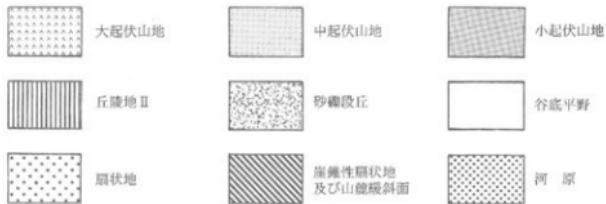
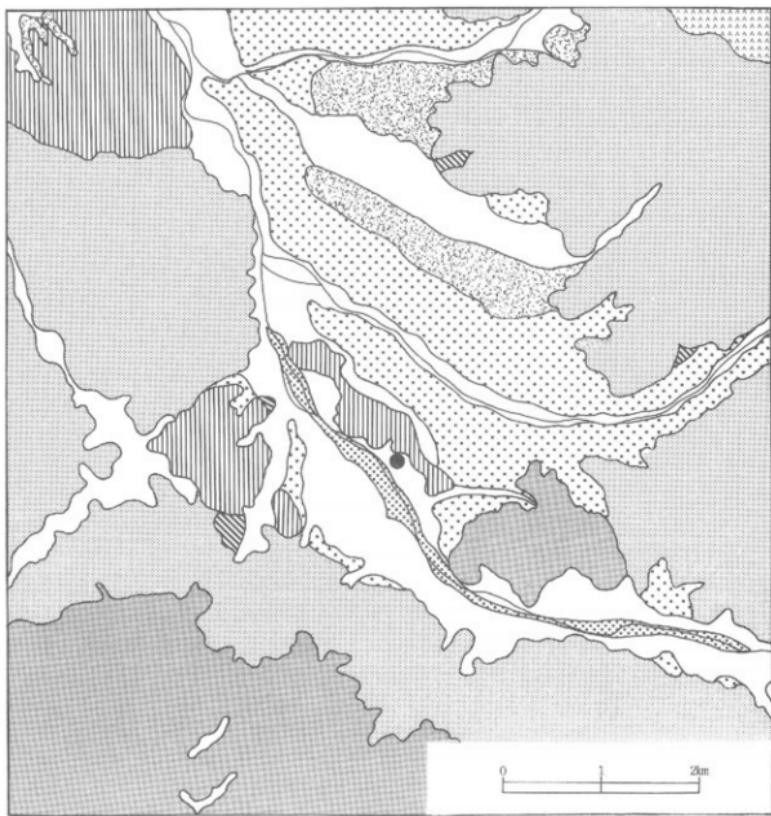
遺跡の位置する河岸段丘は早瀬川・中沢川・猫川・河内川などによって形成された扇状地が段丘化したもので、この段丘は遠野段丘と呼ばれる。面的には小規模なもので、花崗岩質砂と古生層のスレート・チャート等の礫が混じった、全体的に砂がちな沖積層が主に堆積し、段丘の縁辺部は河成堆積物と河川傍の山腹斜



第1図 岩手県全図



第2図 遺跡の位置図



第3図 周辺地形図



第4図 周辺の地形と調査範囲

面などから供給された風化砂礫層が交互に入り混じって構成されている。

平倉觀音遺跡は北側の丘陵に沿うように立地し、若干南側へ傾斜している。遺物包含層（面積約400m<sup>2</sup>）が調査区東側に広がり、縄文時代後・晚期から弥生時代初頭の遺物が主に出土している。本遺跡の標高は約355～358m程で、現沖積面との比高は約5～6m程を測る。発掘調査前は水田として土地利用されており、昭和30年代に行われたほ場整備により遺跡中央付近の若干低い部分以外は削平を受けている。

（太田代・島原）

### 第3節 基本層序

今回の調査区では昭和30年代に行われた、前回のは場整備やそれ以前の開田時の削平等によって後世の搅乱が著しい。基本的には耕作土であるⅠ層と遺構検出面であるV層は共通しているものの、地区によって様々であるために分けて述べることとする。

北部は盛土層（Ⅱa層）の下に旧耕作土（Ⅱb層）が薄く層状に堆積し、Ⅲ・Ⅳ層は確認されず検出面（V層）に至る状況が見られる。

中央部は耕作土下にⅡa層が堆積するが、その下は緩斜面部と急斜面部で様相が異なり、緩斜面部は一部痙攣部分で開田時の削平を免れたIV層が確認される。基本的にはⅢ・Ⅳ層は削平され残存していないためⅡ層下はV層に至る状況を呈するが、急斜面部は開田時に削平した土を盛っているためⅡa層が厚く堆積している。旧表土層であるⅢ層も残存しているが、Ⅳ層は形成されなかつたのか流出したのか不明だが確認されず、V層に至っている。

南部は開田時の削平でⅡ・Ⅲ・Ⅳ層は消失し、Ⅰ層下がV層に至る状況を呈している。

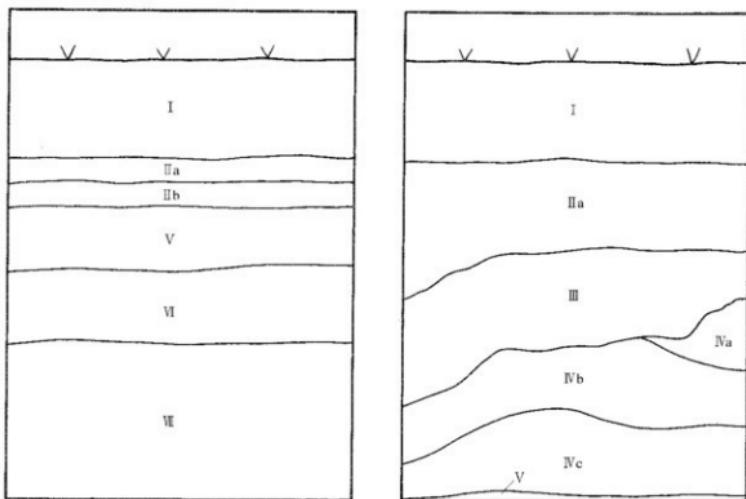
### 第4節 周辺の遺跡

岩手県教育委員会の遺跡台帳によると、遠野市内には309箇所の遺跡が確認されている。平倉觀音遺跡は遠野市の南東部に位置し、遠野市と住田町との境が近いため、住田町の新田山開拓地付近と氣仙川の支流である坂本川上流域に分布している遺跡も含め、遠野市48遺跡、住田町5遺跡を図示した。

図中の周辺遺跡は、縄文時代の遺跡が43遺跡あり、そのうち集落跡が5遺跡を数え、他は散布地となっている。中世の遺跡は城館跡で6遺跡、平安時代の遺跡は2遺跡を数え、中世城館跡と縄文時代・平安時代と縄文時代が複合しているのがそれぞれ1遺跡づつある。江戸時代の遺跡では一里塚が2遺跡ある。詳細な発掘調査をされている遺跡は少ない。

平倉觀音遺跡の北西側には、慈覚大師円仁の布教巡回中に創建されたと伝えられる遠野七觀音の一つ、平倉觀音が安置されている御堂が丘陵中腹に隣接している。

縄文時代の遺跡は、本遺跡より北西方向の早瀬川右岸に縄文後期集落の清水川I遺跡（23）が、南東方向には縄文前期から中期初頭の集落跡である林崎遺跡（37）がある。早瀬川を挟んだ対岸の平野上には縄文晚期集落の地崎遺跡（34）が位置し、同じく対岸の河岸段丘上には縄文時代の散布地である平倉遺跡（42）・平野原遺跡（43）がある。青雀付近の早瀬川と河内川の合流地点付近から早瀬川右岸の河岸段丘上及び谷底平野上には、晴山IV遺跡（2）・赤羽II遺跡（4）・中下遺跡（8）・八幡II遺跡（11）などの縄文時代の遺



調査区北南側

調査区中央

## 平倉観音遺跡基本土層

- I層 10YR2/1 黒 しまり無 粘性有（耕作土）層厚20~30cm  
 IIa層 10YR4/2 灰黄褐 しまり有 粘性少し有（前回のは場整備以前の耕作土）層厚5~15cm  
 IIb層 10YR2/2 黒褐 しまり有 粘性少し有（前回のは場整備以前の耕作土）調査区中央付近に堆積  
 III層 10YR3/1 黒褐 しまりやや有 粘性少し有（旧表土）調査区中央  
 IVa層 10YR2/1 黑 しまり有 粘性少し有（遺物包含層1）層厚5~10cm  
 IVb層 10YR1.7/1 黒 しまり有 粘性少し有（遺物包含層2）層厚15~30cm  
 IVc層 10YR2/1 黒 しまり有 粘性少し有（遺物包含層3）層厚5~15cm  
 V層 10YR4/6 褐 しまり有 粘性有 遺構検出面  
 VI層 10YR6/1 純灰 しまり有 粘性無 砂質シルト  
 VII層 10YR4/4 褐 しまり有 粘性有 5~10cm根含む

第5図 基本土層柱状図

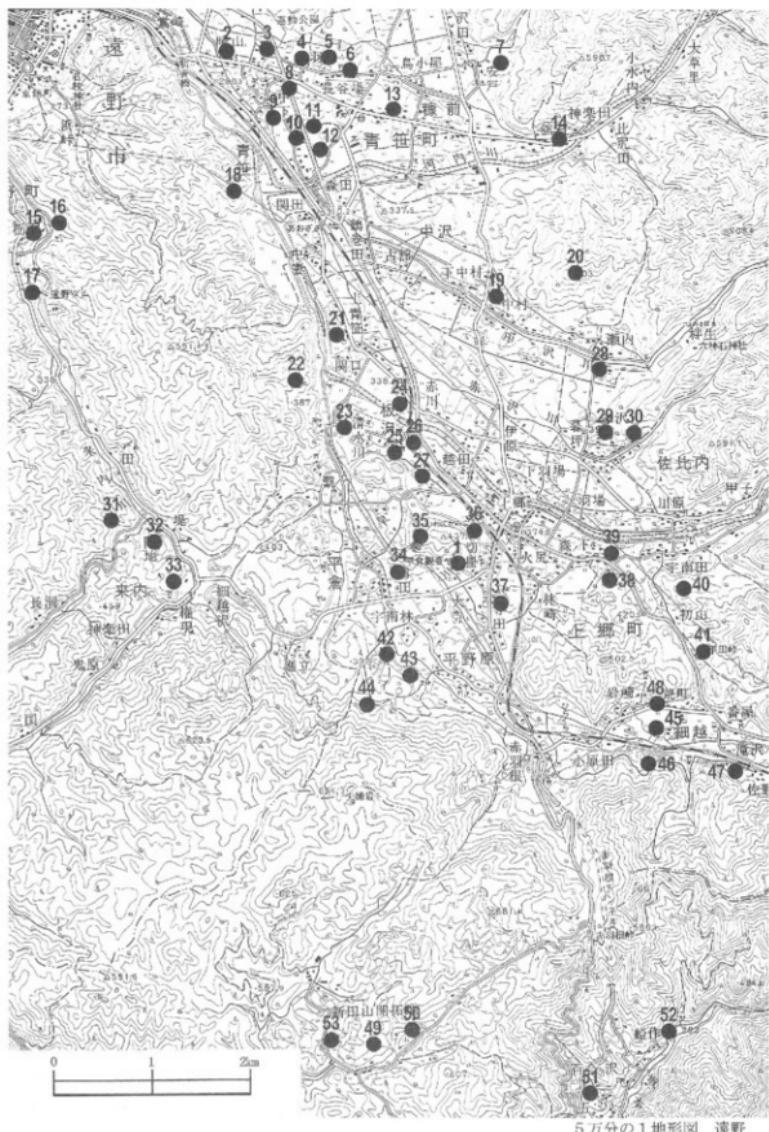
跡が集中して分布している。遺跡の分布は、早瀬川とその支流流域の谷底平野及び河岸段丘に多くみられ、平倉親音遺跡も早瀬川流域の谷底平野に面した河岸段丘上に立地している。また、河川による開析で形成された丘陵地形や山麓地形の緩斜面上にも遺跡が集中する。繩文時代の遺跡は多く、時期は全般にわたっているが、早期・前期が主体を占める傾向が見受けられる。

中世の遺跡は主に城館跡で、これらの中世城館跡の立地している地形は主に平野に張り出している尾根の先端部、あるいは台地上である。本遺跡の北側にある丘陵の西側緩斜面上には刃金館（35）が位置している。早瀬川沿いには、篠館（46）・板沢館（22）・白館（18）など、釜石や住田への街道筋をみおろす場所に城館跡が確認されており、中でも篠館（46）は平成10・11年に発掘調査が行われ、15～16世紀にかけての曲輪32箇所、武者走り状遺構2箇所、堀跡9条、土塁9箇所等の遺構が確認され、堀日ないし詰めの城的な性格を持つ山城ではないかと報告されている。

（太田代）

#### 引用・参考文献

1. 北上山系開発地域 土地分類基本調査 遠野 5万分の1 1970年
2. (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 『高瀬I遺跡発掘調査報告書』  
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第155集 1991年
3. (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 『篠館跡発掘調査報告書』  
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第353集 2000年
4. 岩手県遠野市教育委員会 『甲子遺跡』 遠野市埋蔵文化財調査報告書第11集 1998年
5. 岩手県遠野市教育委員会 『新田II遺跡』 遠野市埋蔵文化財町紗報告書第13集 2002年
6. 菅原啓・高橋節子 「遠野盆地の緩斜面と段丘の成因について」 『東北地理』第26巻第1号 1974年
7. 『遠野市史』



第6図 周辺の遺跡分布図

第1表 周辺の遺跡一覧表

No.	遺跡名	種別	時代	遺構・遺物
1	平倉瓶井	散布地	縄文・弥	縄文土器（後末期）・注口土器・弥生土器・遺物包含層
2	晴山IV	散布地	縄文	縄文土器
3		散布地	縄文	縄文土器
4	赤羽II	散布地	縄文	縄文土器
5	長谷場	散布地		
6	天王	散布地	平安	須恵器
7	安戸	散布地		
8	中下	散布地	縄文	縄文土器
9	合田	散布地		土器
10	八幡I	散布地	土器	
11	八幡II	散布地	縄文	縄文土器
12	下闇	散布地	縄文	縄文土器
13	善心寺	散布地		土師器
14	館石	散布地		土器
15	夫婦石臼高野	集落跡	縄文	青竜刀形石器・炉跡
16	櫻洞	散布地	縄文	縄文土器・土師器
17	ノ田	散布地	縄文	縄文土器
18	臼前（廿節）	城館跡	中世	堀・平場
19	鎌山麓	散布地		石皿・石鐵
20	中沢II	城館跡	中世	平場・土壘・空塁
21	太田	散布地	縄文・半	石皿・石斧・土師器
22	板沢（大洞）館	城館跡	中世	堀・平場・帯郭
23	清水川I	集落跡	縄文	縄文土器（後期）・石神・石斧
24	赤川	散布地	縄文	縄文土器・石斧・石鐵
25	清水川II	散布地		土器
26	赤川一里塚	一里塚	江戸	
27	越田	散布地		土器
28	瀬内	集落跡	縄文	縄文土器（前末～中期）・石斧
29	幕坪前	散布地		土器
30	赤沢	散布地		土器
31	長洞	散布地	縄文	縄文土器（後期）
32	同地	散布地	縄文	縄文土器（晩期）
33	桜尾	散布地	縄文	縄文土器・石斧・石鐵
34	地崎	集落跡	縄文	縄文土器（晩期）・石斧・石鐵
35	刃金館	城館跡	中世	堀・平場・帯郭・土壘
36	切掛	散布地	縄文	縄文土器・石鐵
37	林崎	集落跡	縄文	縄文土器（前末～中期）・磨製石斧・土偶・石鏡・石匙・石鐵
38	森ノ下I	散布地・城館跡		
39	森ノ下II	散布地	縄文	縄文土器
40	太田館	城館跡	中世	堀・土塁・平場・帯郭
41	滑田一里塚	一里塚	江戸	
42	平倉	散布地	縄文	縄文土器・磨製石斧
43	平野原	散布地	縄文	縄文土器（中期）・石器
44	宇南林	城館跡		
45	岩崎	散布地	縄文	縄文土器
46	篠館（開口館）	散布地・城館	縄文・中	縄文土器・石鐵・石鏡・土器・瓦塙・平場・帯郭
47	瀧ノ沢	散布地		
48	寺屋敷	散布地	縄文	縄文土器
49	新田山II	散布地	縄文	縄文土器（後期）
50	新田山I	散布地	縄文	縄文土器（後期）
51	上の平	散布地	縄文	縄文土器（後・晩期）
52	船作	散布地		土師器・土器
53	新田III	散布地	縄文	縄文土器（後期）

## 第Ⅲ章 調査の概要と整理方法

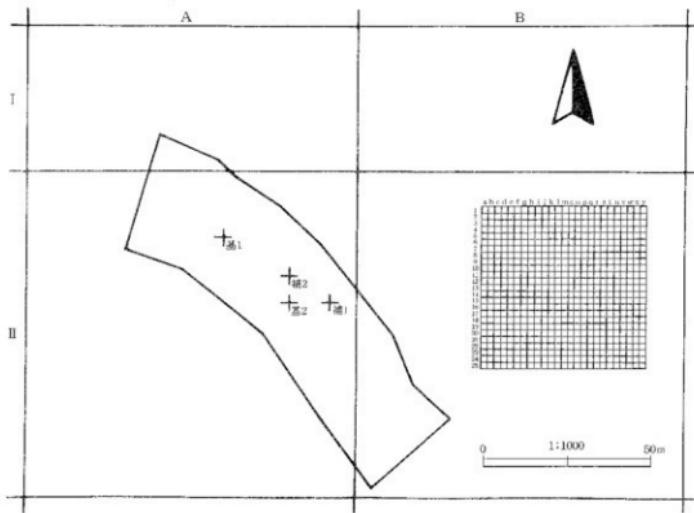
### 第1節 調査経過

野外調査は4月8日から5月31日まで行った。4月8日午後作業開始、現場設営を行う。4月9日より調査を開始する。前年度生涯学習文化課が試掘したトレンチを順次再掘して、検出面、基本層序を確認する。同16日より重機を投入して表土除去ならびに遺構検出を行う。25日基準点設置。遺構数も概ねこの段階には確定したので遺物包含層ならびにそれを切っている溝を中心に精査を開始する。5月に入ると、遺物包含層を切っていた溝が断面観察の結果、旧河道であることが判明したので、遺物が出土する部分のみ精査を行うことに方針変更、他の遺構の精査を開始。中旬までは順次遺構精査を進める。22日生涯学習文化課による終了確認が行われる。終了確認前後には実測ならびに旧河道のうち遺物が出土する部分のみの精査が作業の中心となる。同31日には器材を撤収し、埋め戻しを行い調査を終了した。

### 第2節 野外調査の方法

#### 1. グリッドの設定（第7図）

今回の調査区域全体をカバーできるよう世界座標に合わせて座標設定及びグリッド設定を行うこととした。調査区外の北西隅を始点とし100m間隔で北から南に向かってI、II、IIIとローマ数字を、西から東に向かってA、B、Cとアルファベットの大文字を当てて大グリッドを設定した。各大グリッド内に4m間隔で25等分して、大グリッドと同様に北から南に1～25とアラビア数字を、西から東にa～yとアルファベッ



第7図 グリッド配置図

ト小文字を当てて、それらの組み合わせで小グリッドを表すこととした。作業を行う際にはグリッドの北西隅の杭にグリッド名を記入し、IA 1 a グリッドというような呼称をした。また、調査区が世界座標軸に対して西へ傾いているため、調査区全体をカバーするような区割りを行った際に原点が調査区外に位置してしまった。原点の座標値（世界測地系）は以下の通りである。

$$X = -79,500.00 \quad Y = 64,600.00$$

また、実際にグリッド設定を行う際には、基準点を業者に委託して打設することとした。調査時にはその基準点を使用して調査区の区割り・グリッド設定を行った。各地区で使用した基準点の座標値は以下の通りである。

基準点名	X座標	Y座標	基準点名	X座標	Y座標
基 1	-79,620.000	64,660.000	補 1	-79,640.000	64,692.000
基 2	-79,640.000	64,680.000	補 2	-79,632.000	64,680.000

## 2. 粗掘と精査

粗掘は平成13年度に行われた試掘結果をもとに試掘トレーナーを再掘し、土層断面を観察した。遺物がほとんど見られないⅠ・Ⅲ層に関しては重機を使用して除去することとしたが、遺物包含層周辺はⅡ層中からも遺物が一定量出土していたため、遺物出土量が少ない表土は重機でⅡ層より下は人力で除去している。

精査は基本的に土坑は2分法による埋土の観察を行った。遺物包含層に関してはグリッド幅に合わせたベルトを設定し堆積状況を観察し、その断面観察をもとに上の層から1層ずつ掘り下げて遺物を取り上げた。旧河道は適時ベルトを設定し埋土の観察を行った。

遺物の取り上げは遺構外に関してはグリッド名と層位、遺構内に関しては遺構名と埋土層位を、遺物包含層はグリッド名と層位を記入し、出土地点を実測した遺物に関しては取り上げ番号も記入した。

## 3. 遺構の記録

遺構の記録は実測図と写真撮影により、図面で表現できない所はフィールドカードに記録している。図面は遺構の平面形、遺物出土状況を記録した平面図、ならびに遺構の断面形・埋土の堆積状況を記録した断面図を作成し、適時エレベーション図も作成した。作図は簡易造り方測量を準用し、精査途中で随時作図記録した。縮尺は基本的には1/20を原則とし、規模が長大な旧河道に関しては平板測量で1/50で作図した。

写真は遺構検出状況、埋土堆積状況、遺物出土状況、完掘状況というように精査の各段階毎に必要に応じて撮影を行っている。フィルムは35mm判のモノクロとリバーサルを使用している。また、状況に応じてデジタルカメラ・ポラロイドを使用してメモ的写真を撮影している。

## 第3節 室内整理の方法

図面点検・遺物の洗浄・写真整理は原則的に現場で行うこととしたが、期間の後半は調査に追われ、一部は野外調査終了後に行っている。

## 1. 遺構図面

遺構図面は点検後、第二原図を作成した。押図中の縮尺は土杭は1/40、柱穴状土坑の平面図は1/100を原則として、任意縮尺に関してはスケールをつけている。また、使用したスクリーントーンに関しては図中に凡例を示した。

## 2. 遺物

遺物は洗浄後、出土遺物の全てを点検し、遺構内外の種別毎に仕分けを行い、注記・接合・復元と作業をすすめ、実測・採択が必要なものを選んで登録した。実際には登録した遺物からさらに絞り込んで実測・トレース・写真撮影・図版作成を事業を進め、報告書に掲載する形を取っている。実際の作業に関しては調査員が仕事の計画と指示・点検を、作業員が実際の仕事を行うという具合に分担している。

報告書に掲載した遺物の掲載基準は、土器は完形品と接合復元したものの中で器形がおよそ把握できるものは掲載している。遺構内から出土した遺物は点数が少ないため口縁部・底部破片を、遺物包含層・旧河道から出土した遺物に関しては口縁部・底部破片を中心に選択している。

石器・石製品に関しては点数が少ないとおり登録した全点を掲載したが、一部写真のみ掲載の遺物もある。

縮尺は土器は原則として1/3だが器高25cm以上の土器に関しては1/4、剥片石器に関しては1/2である。これらの原則と異なる縮尺の図面には脇に縮尺を表記することとし、任意の縮尺に関しては脇にスケールをつけている。

## 3. 写真

野外調査中に撮影した写真は、撮影順に対応するようにフィルムの種類毎にモノクロはネガアルバムにリバーサルはスライドファイルに整理して台帳に記入した。

遺物は当センターの写真技師が登録した遺物を35mm判フィルムで撮影し、現像終了後、種別毎に整理を行っている。



第8図 遺構配置図

## 第IV章 検出遺構と出土遺物

今回の発掘調査で検出された遺構は土坑7基（SK01・02・05～09）、遺物包含層1箇所、柱穴状土坑154基である。土坑は検出当初に遺構番号を連番で振り分けたため、没遺構の番号はそのまま抹消し、番号を詰めることをしなかったため、連番にはなっていない。また、時期不明遺構が多いことから遺構の種別毎に記述を進めていくこととする。

### 第1節 検出された遺構

#### (1) 土坑

##### SK01土坑（第9図、写真図版2）

調査区中央、II A 10 t グリッドに位置し、V層上面で検出した。平面形・規模は橢円形を呈し、開口部径239×157cm、底部径191×116cmを測る。断面形は皿状を呈し、深さ16cmを測る。埋土は上位は黒褐色土、下位はにぶい黄褐色土を主体とした自然堆積で2層に細分された。底面は概ね平坦である。遺物は埋土中から弥生土器片が2点が出土した。このうち掲載した遺物は、埋土中より出土した弥生土器（1）である。

##### SK02土坑（第9図、写真図版2）

調査区中央、II A 10 u・v グリッドに位置し、V層上面で検出した。平面形・規模は円形を呈し、開口部径168×139cm、底部径147×127cmを測る。壁は鋭角的に立ち上がり、深さは25～33cmである。埋土は黒色土を主体とした単層で人為堆積を呈する。底面は概ね平坦である。遺物は弥生土器が小袋1袋分出土した。このうち掲載した遺物は、埋土中より出土した縄文土器（2）と不定形石器（404）である。

##### SK05土坑（第10図、写真図版2）

調査区北部、II A 6 o・p グリッドに位置し、V層上面で検出された。平面形・規模は橢円形を呈し、開口部径140×87cm、底部径112×63cmを測る。断面形は皿状を呈し、深さ13～19cmを測る。埋土は褐色土を主体とした自然堆積の単層である。底面は概ね平坦である。遺物は出土しなかった。

##### SK06土坑（第9図、写真図版2）

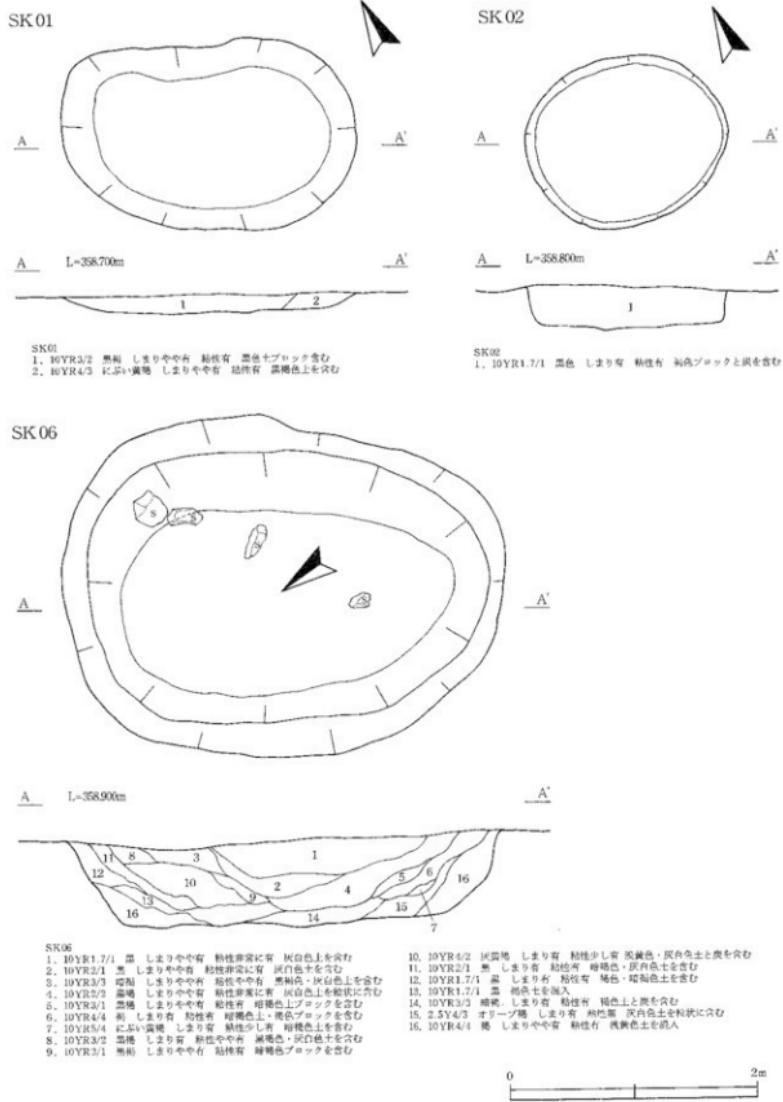
調査区北部、II A 4 q・r グリッドに位置し、V層上面で検出された。平面形・規模は橢円形を呈し、開口部径360×280cm、底部径269×151cmを測る。壁は下半部は外傾して、上半部は鋭角的に立ち上がる。深さは62～65cmを測る。埋土は上・中位が黒色土、下位は褐色土を主体とした自然堆積で16層に細分された。底面は概ね平坦である。遺物は弥生土器片が9号袋半分程出土している。

##### SK07土坑（第10図、写真図版3）

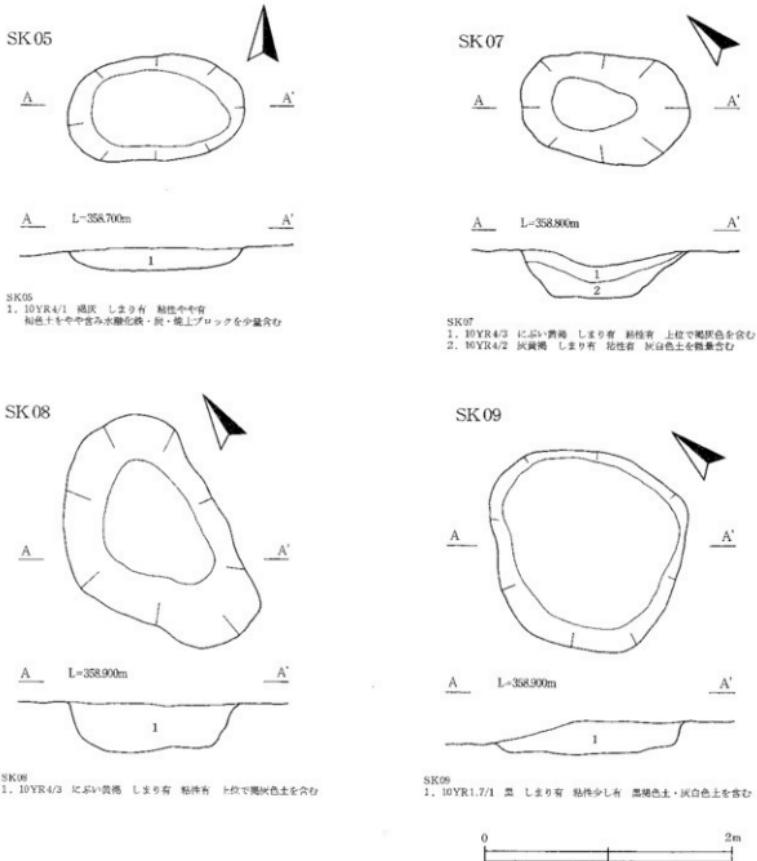
調査区北部、II A 6 s グリッドに位置し、V層上面で検出された。平面形・規模は橢円形を呈し、開口部径137×87cm、底部径69×41cmを測る。断面形は逆台形状を呈し、深さ約40cmである。埋土は上位がにぶい黄褐色土、下位は灰褐色土を主体とした自然堆積で2層に細分された。底面は概ね平坦である。遺物は出土しなかった。

##### SK08土坑（第10図、写真図版3）

調査区北部、II A 6 s グリッドに位置し、V層上面で検出された。平面形・規模は橢円形を呈し、開口部径203×131cm、底部径107×75cmを測る。断面形は逆台形状を呈し、深さ33～39cmを測る。埋土にぶい黄



第9図 SK 01・02・06土坑



第10図 SK05・07・08・09土坑

褐色土を主体とした自然堆積の単層である。底面は概ね平坦である。遺物は出土しなかった。

#### S K09土坑（第10図、写真図版3）

調査区中央、II B12a・bグリッドに位置し、V層上面で検出された。開田時の削平により西半部の上半部を消失している。平面形・規模は円形状を呈し、開口部径163×160cm、底部径141×137cmを測る。断面形は逆台形状を呈し、深さは11～19cmである。埋土は黒色土を主体とした単層で人為堆積を呈する。底面は概ね平坦である。遺物は出土しなかった。

#### (2) 遺物包含層

##### 遺物包含層（第11～13図、写真図版3～6）

調査区中央部II A12v～II A16yグリッドに位置し、V層上面で検出された。遺物包含層内には生涯学習文化課の試掘トレレンチ（T13）が入っており、その試掘トレレンチは基盤層まで掘り込まれていたことから、トレレンチの再掘から開始し断面観察を行った。その結果、包含層は大きくIVa～IVc層の3層に細分され、最大厚50cmを測ることが確認された。これを踏まえて、II A11u～16uグリッドの西半部（南北トレレンチ）と、II A14u～II B14aグリッド北半部（東西トレレンチ）を基盤層まで10cm単位で掘り下げ、層序の確認と遺物の出土状況を確認した。その結果、II A14u・vグリッドからはある程度の出土量があったものの、それ以外の部分からの出土量は多くない上に、拳大以上の破片がまとまって出土することもなく、全体的に小破片が散在するかのような出土状況を呈していた。これらの出土状況と残りの調査期間が限られていたことから、ジョレン用いて上から1層ずつ掘り下げていくこととし、掘り下げた段階でクリーニングを行い遺構の有無を確認し、遺物に関してはグリッド毎に器形が分かる破片なしし拳大の破片は残し、フィールドカードと写真に記録してから取り上げるという方針を立て、南北トレレンチの西壁際と東西トレレンチの北壁際をベルトとして残して順次北側から掘り下げていった。精査の結果、遺物は拳大以上の破片が出土すること自体がまれで、小破片ばかり出土する上に、面的にまとまって出土することもなく、上下に厚みをもって堆積する状況も確認されず、まさに散在して出土している様相を呈し、また焼土や掘削廃土等も包含層中からは確認されていない。状況からみて本来洞状の緩斜面に斜面上位から遺物が流入・堆積したもの底部付近が、開田時の削平を免れ、残存していたものではないかと思われる。包含層からは縄文晩期末～弥生時代前期（青木畠～山王Ⅲ層式期）の時が出土しており、弥生時代前期の土器が主体を占めている。

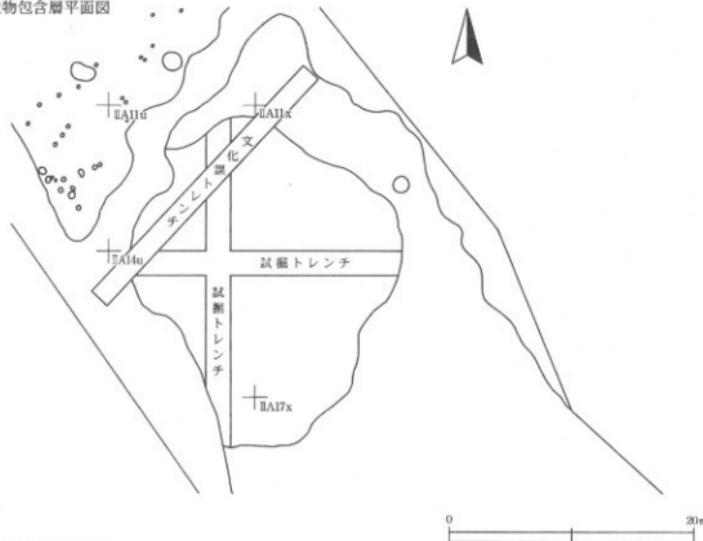
#### (3) 柱穴状土坑

##### 柱穴状土坑（第14～17図、第2～4表、写真図版7）

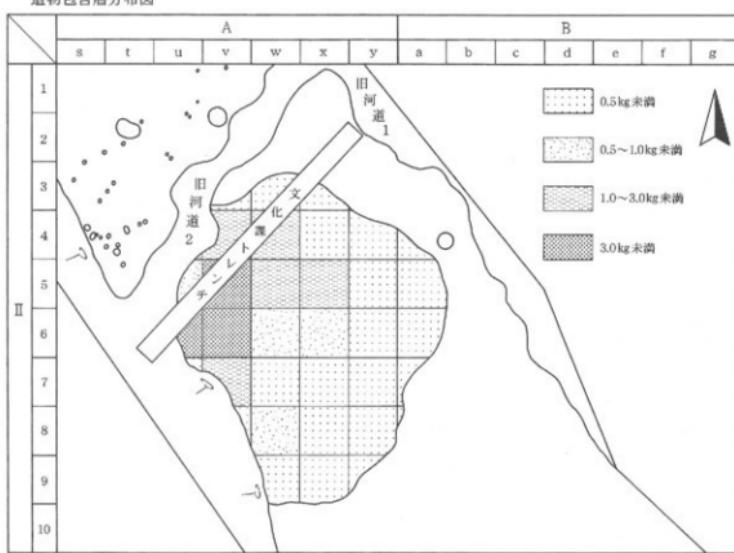
調査区北側から中央付近にかけて柱穴状土坑が多数検出されている。柱穴は154基を数えるが、掘立柱建物跡を構成する柱穴は確認されなかった。平面形は円形・梢円形・方形などがあるが、円形・梢円形が主体を占める。深さは3.5～56.5cmを測るが、規則性は認められず、また掘り方を持った柱穴は確認されていない。埋土は黒色～黒褐色土系の自然堆積を呈する。遺物は出土しなかった。

（太田代）

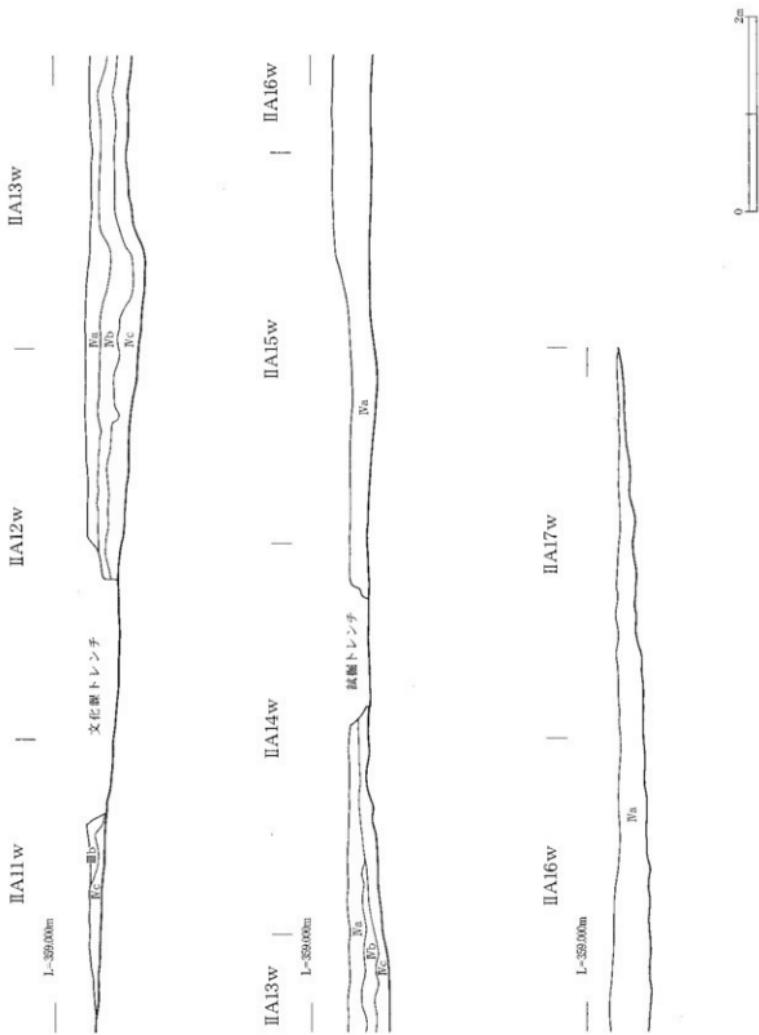
遺物包含層平面図



遺物包含層分布図



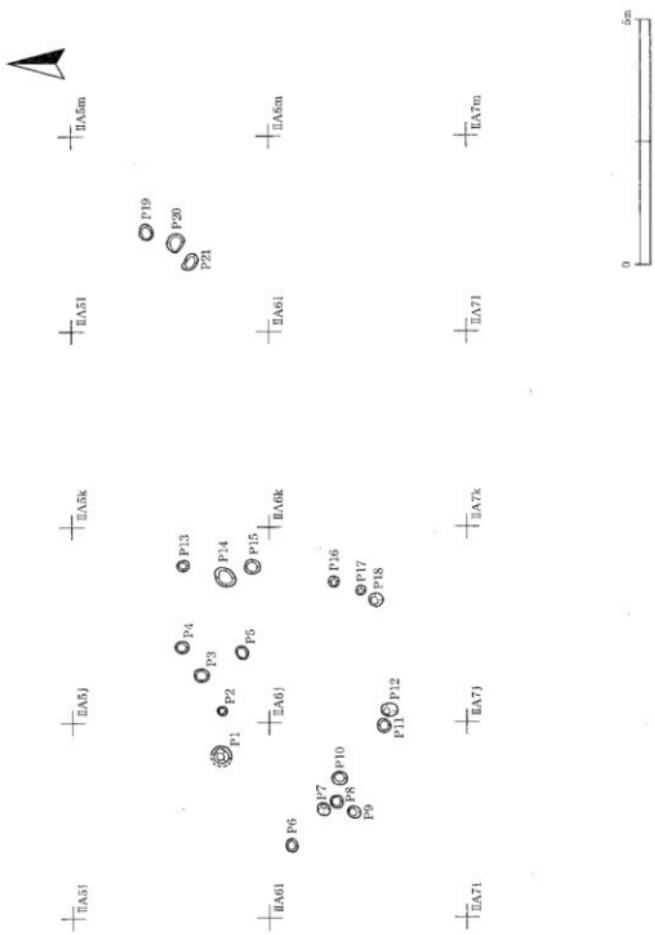
第11図 遺物包含層平面図・分布図



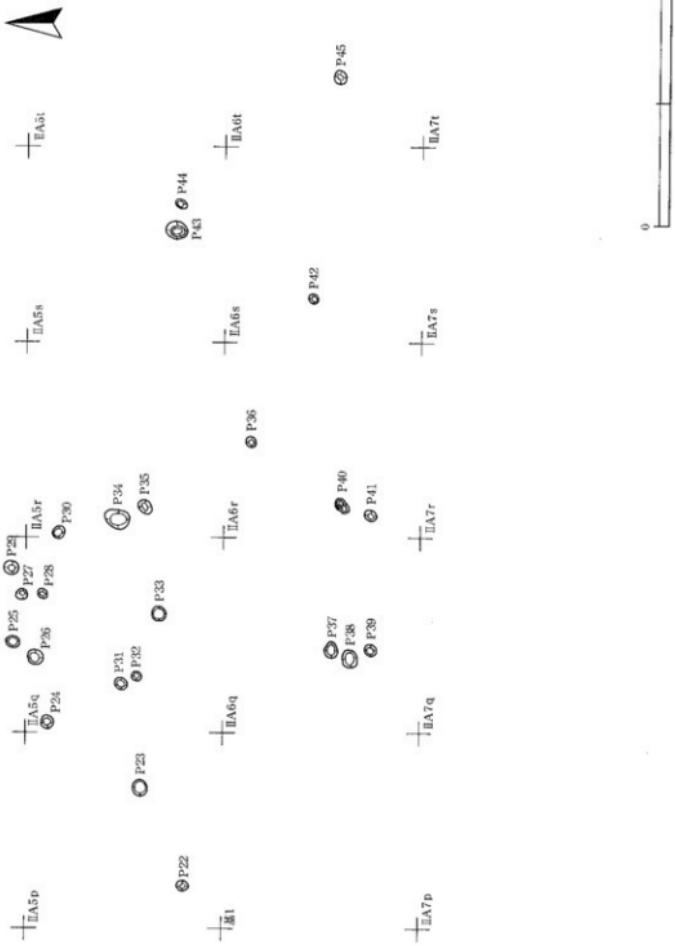
第12図 遺物包含層南北ベルト断面



第13図 遺物包含層東西ベルト断面



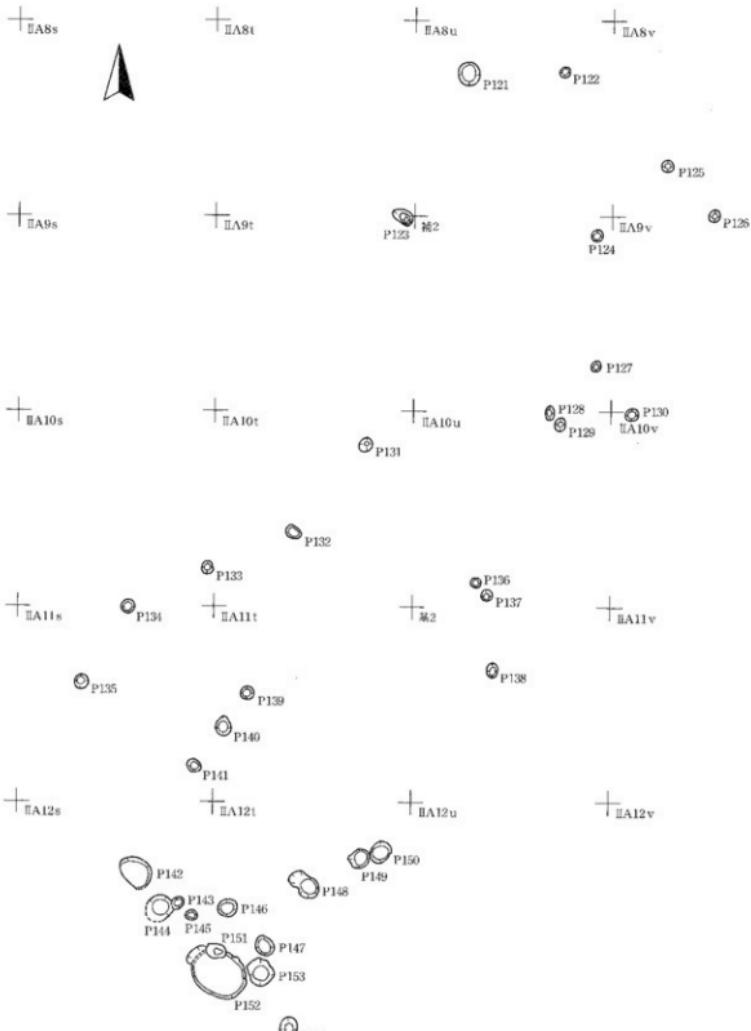
第14図 柱穴状土坑(1)



第15图 柱穴状土坑(2)



第16図 柱穴状土坑(3)



第17図 柱穴状土坑(4)

第2表 柱穴状土坑観察表(1)

No	径(cm)	深さ(cm)	平面形	備考
1	41×(40)	33.1	円形	
2	18×18	6.9	円形	
3	28×27	13.0	円形	
4	27×22	22.5	橢円形	
5	28×22	8.8	橢円形	
6	27×20	11.8	橢円形	
7	26×24	14.0	橢円形	
8	24×24	20.6	円形	
9	25×22	13.9	橢円形	
10	30×26	23.6	橢円形	
11	26×26	17.4	円形	
12	34×12	26.0	橢円形	
13	22×22	13.5	円形	
14	44×33	6.0	橢円形	
15	29×28	25.7	円形	
16	20×18	10.5	橢円形	
17	19×17	10.0	橢円形	
18	29×28	20.1	橢円形	
19	32×25	7.2	橢円形	
20	37×30	6.5	方形状	
21	38×27	7.3	橢円形	
22	22×22	9.5	円形	
23	33×30	23.2	橢円形	
24	25×22	19.7	橢円形	
25	26×21	12.1	橢円形	
26	32×30	18.6	橢円形	
27	22×18	27.8	橢円形	
28	18×18	22.1	円形	
29	30×29	23.2	円形	
30	24×19	10.6	橢円形	
31	26×23	13.5	橢円形	
32	17×17	21.7	円形	
33	26×26	26.7	円形	
34	50×38	29.1	橢円形	
35	30×25	8.4	橢円形	
36	20×18	10.2	円形	
No	径(cm)	深さ(cm)	平面形	備考
37	33×29	17.3	橢円形	
38	37×29	25.0	橢円形	
39	23×21	38.4	橢円形	
40	32×20	24.6	不整形	
41	24×20	20.1	橢円形	
42	20×20	11.8	円形	
43	42×34	26.6	橢円形	
44	20×16	17.4	橢円形	
45	27×26	11.8	円形	
46	22×20	12.5	橢円形	
47	38×25	38.8	橢円形	
48	39×23	25.2	橢円形	
49	20×20	9.5	円形	
50	28×24	20.7	橢円形	
51	23×23	11.7	円形	
52	16×14	11.4	橢円形	
53	10×10	16.4	円形	
54	27×27	35.9	円形	
55	39×32	46.0	橢円形	
56	25×23	7.8	橢円形	
57	30×20	13.5	不整形	
58	28×23	30.3	橢円形	
59	31×29	29.7	橢円形	
60	17×14	12.4	橢円形	
61	36×25	30.0	不整形	
62	22×20	45.6	橢円形	
63	15×15	18.2	円形	
64	23×21	19.9	橢円形	
65	30×18	13.3	橢円形	
66	14×14	12.1	円形	
67	30×27	21.2	橢円形	
68	27×24	15.7	橢円形	
69	37×32	51.2	橢円形	
70	16×15	10.4	円形	
71	23×18	29.3	橢円形	
72	32×31	37.0	橢円形	

第3表 柱穴状土坑観察表(2)

No.	径(cm)	深さ(cm)	平面形	備考
73	18×18	12.4	円形	
74	20×20	14.7	円形	
75	20×20	28.6	円形	
76	57×36	36.6	楕円形	
77	64×40	36.3	不整形	
78	28×27	28.3	円形	
79	14×12	37.4	楕円形	
80	16×14	29.3	楕円形	
81	27×26	28.4	楕円形	
82	16×16	12.7	円形	
83	18×15	17.7	楕円形	
84	31×24	30.3	楕円形	
85	24×23	6.7	方形状	
86	14×14	27.7	円形	
87	20×14	15.0	楕円形	
88	25×16	14.6	楕円形	
89	19×16	24.6	楕円形	
90	16×14	25.8	楕円形	
91	20×16	28.6	楕円形	
92	39×30	16.6	楕円形	
93	14×14	12.8	円形	
94	18×18	26.8	円形	
95	19×18	28.0	円形	
96	20×19	8.3	円形	
97	18×16	16.2	楕円形	
98	29×29	44.3	円形	
99	27×23	23.1	楕円形	
100	26×24	12.2	不整形	
101	15×15	17.2	円形	
102	17×16	56.5	楕円形	
103	28×27	41.0	方形状	
104	24×16	4.8	楕円形	
105	46×41	7.4	楕円形	
106	25×22	17.4	楕円形	
107	14×12	4.9	楕円形	
108	13×13	9.3	円形	

No.	径(cm)	深さ(cm)	平面形	備考
109	30×20	20.1	椭円形	
110	23×20	8.6	方形状	
111	37×18	13.9	椭円形	
112	24×20	23.2	椭円形	
113	29×28	4.8	椭円形	
114	36×33	11.4	椭円形	
115	28×24	11.1	椭円形	
116	35×32	57.4	椭円形	
117	28×25	15.1	不整形	
118	50×45	7.6	椭円形	
119	25×22	50.2	椭円形	
120	38×27	3.5	椭円形	
121	50×42	14.8	椭円形	
122	20×20	26.4	円形	
123	40×23	26.4	椭円形	
124	22×22	21.5	円形	
125	27×23	13.8	椭円形	
126	24×23	—	円形	
127	22×20	12.5	椭円形	
128	27×17	12.5	椭円形	
129	25×19	15.7	椭円形	
130	26×23	21.6	椭円形	
131	30×24	28.4	椭円形	
132	32×20	18.2	椭円形	
133	24×20	14.1	椭円形	
134	28×26	19.7	椭円形	
135	28×28	7.4	円形	
136	19×19	9.7	円形	
137	22×20	13.4	椭円形	
138	29×22	13.4	椭円形	
139	26×25	26.9	円形	
140	38×30	21.5	椭円形	
141	30×24	19.1	椭円形	
142	72×[51]	12.8	椭円形	
143	(26)×21	9.2	椭円形	
144	(58)×51	52.7	椭円形	

第4表 柱穴状土坑観察表(3)

No.	径(cm)	深さ(cm)	平面形	備考
145	22×20	12.5	橢円形	
146	39×34	20.1	橢円形	
147	42×35	27.4	橢円形	
148	62×30	25.4	不整形	
149	42×35	16.4	不整形	

No.	径(cm)	深さ(cm)	平面形	備考
150	42×37	28.3	橢円形	
151	40×27	24.0	不整形	
152	(114) ×89	11.4	橢円形	
153	53×50	42.8	不整形	
154	46×32	22.1	橢円形	

## 第2節 出土遺物

今回の調査で出土した遺物は弥生土器が大コンテナ11箱、石器類が小コンテナ1箱出土し、主に遺物包含層と旧河道から出土している。そのほかに、土製品と陶磁器が数点、不明鉄製品2点が表土・旧河道より出土している。出土状況としては大半が遺物包含層と旧河道から出土しているが、旧河道から土器が大コンテナ7箱と石器の大半が出土しているのに対し、遺物包含層からは土器が大コンテナ4箱分出土したのを数えるのみで、旧河道からの出土量が圧倒的に多い。旧河道は堆積土が上位は黒褐色シルト、中・下位は灰白色の粗砂であったので、黒褐色土・砂で分けて層位的に遺物を取り上げては見たが、16世紀の廣津産陶器等が弥生土器と一緒に出土している状況から見ても分かるように、現位置を保った出土状況を呈しているとは言い難い。状況から見て、旧河道が調査区内を流れ、堆積していく過程で、斜面上位もしくは上流部からこれらの遺物が流れ込んできたものと思われる。

遺物の掲載基準は前述の通りで、遺構内出土遺物、遺物包含層、遺構外出土遺物の順に、土器は深鉢・高杯・浅鉢・蓋・その他（ミニチュア土器）の順で、石器は石礫・石匙・不定形石器・耳飾りの順に掲載し、遺物の個々の記述は実測図と観察表で行うこととした。また、遺構外出土遺物に関しては上記の通り大半が旧河道から出土しているが、必ずしも現位置を保った出土状況をしていない為、大きく時期別に分けてから前述の器種毎に掲載する方針を立てたものの、報告者の力量不足が原因で必ずしも時期別の流れで区分できたとは言い難い。ここでは包含層と旧河道を中心とした遺構外出土遺物の概要を述べた上で、本遺跡出土遺物の分類を行うこととする。

### 遺物包含層出土土器（第18～22図、写真図版9～11、第5表）

当初は縄文時代晩期末～弥生時代前期の包含層と考えていたが、II A12 v グリッドIV c 層中より蓋が出土していること、高杯・浅鉢の形状や文様からみて、時期的に晩期末というよりは弥生時代前期の土器が主体であると思われる。また、II A13 v～II A14 v グリッドのIV b・IV c 層より中～後期にかけての土器が出土している。形のわかるものは小破片でも掲載するようにした為、掲載遺物だけをみると中～後期の土器が多くみられるような印象を持つてしまうが、これら中～後期の土器が最も多く出土しているのはII A14 v グリッドIV b 層で、その下位IV c 層の出土遺物の主体が弥生土器であることと、II A14 v グリッドIV b 層自体が弥生土器の出土量が遺物包含層中では一番多い地点であるので、弥生時代の遺物が主体であるのは間違いないと思われる。前述のようなイレギュラーはあるものの、弥生時代前期の遺物が圧倒的に多く、主体を占めていることは確かで、基本的には弥生時代前期の包含層であると思われる。また、出土量が少ないともあり層序から言えることはほとんど無いと思われる。

### 遺構外出土遺物（第23～33図、写真図版11～18、第5表）

旧河道1と旧河道2のいずれからも出土しているが、旧河道1からの出土が圧倒的に多く、今回の調査で出土した遺物全体の約7割を占めている。調査区内で検出した旧河道1内の出土傾向を見てみると旧河道中央より東側、特に北東側の調査区境での出土量が極めて多く、逆に北西境からは出土遺物はあまり多くは無いという出土傾向が認められる。旧河道からは中・後・晩期末～弥生時代前期土器の出土が確認されているが、同…層より16世紀の唐津産陶磁器等が弥生時代前期の土器と一緒に出土している状況から見ても分かるように、層位的には取り上げたもののプライマリーな出土とは言い難い出土状況である。ただその中でも弥生時代前期の土器の出土量は圧倒的に多い。

前述の通り遺構内出土遺物が少ない上に主要な出土遺物が少ないとから必ずしも層位的な出土状況を呈しているとは言えないが、以下おおきくI～IV群に分類してみることにする。

I群土器：縄文時代中期の土器で点数は少なく大半が遺構外であるが、SK02の埋土中より1点（2）だけ出土している。

II群土器：縄文時代後期の土器である。今回の調査で出土した土器の中では弥生時代前期の土器の次に多く出土している。基本的には後期初頭の、(123)・(156)は中期末～後期初頭、(159)・(342)は後期後葉、(59)は後期末～晩期初頭の土器であると思われる。

III群土器：縄文時代晩期の土器をⅢ群土器としたが、若干量のみの出土である。今回の調査では大洞C2～A式期の土器が出土している。掲載遺物では(343)の1点のみである。

IV群土器：今回の調査で最も出土量が多い。晩期末葉～弥生時代前期に比定される土器をIV群土器に該当させたが、弥生時代前期の青木畠式の土器が多数を占め、確実に大洞A'式(242?・244)や弥生時代前期の山王Ⅲ層式の土器が若干量含まれている。

V群土器：地文のみで所属時期が不明な土器を一括した。

VI群土器：ミニチュア土器を一括した。

### 陶磁器（第34図、写真図版18、第8表）

今回の調査で5点程出土しており旧河道もしくは表土中より出土している。このうち3点を図示した。いずれも旧河道からの出土遺物で、(1001)は唐津産の胎土目碗である。体部下半から底部にかけてはほぼ残存し、口縁部付近が約2/3残存している個体で16世紀代の遺物ではないかと思われる。(1002)は肥前産の碗の高台部付近の破片で、復元実測したものである。時期は18世紀代と思われる。(1003)は肥前産の染付碗の高台部付近の破片で近世以降の遺物と思われる。

### 石器類（第35図、写真図版18・19、第9表）

今回の調査では小コンテナ1箱程出土しておりほとんどが旧河道と表土中よりの出土である。石鏸は4点、石錐は1点、石匙は6点、耳飾り1点に関しては全点を掲載することとし、不定形石器に関しては代表的なものを掲載する方針を立てたが、整理期間の都合上一部写真掲載のみのものもある。ここでは製品にならない石器全てを一括して、不定形石器としている。

### 土製品（第23・24・33図、写真図版12・18、第6・7表）

円盤状土製品と土偶合わせて8点出土している。円盤状土製品は遺物包含層と旧河道より各1点の計2点出土し2点とも掲載した。周辺加工は打ち欠きで、穿孔はなく、体部破片の地文のみである。形状は略円形を呈している。土偶は遺物包含層より1点、旧河道より5点の計6点出土し、その全点を掲載した。



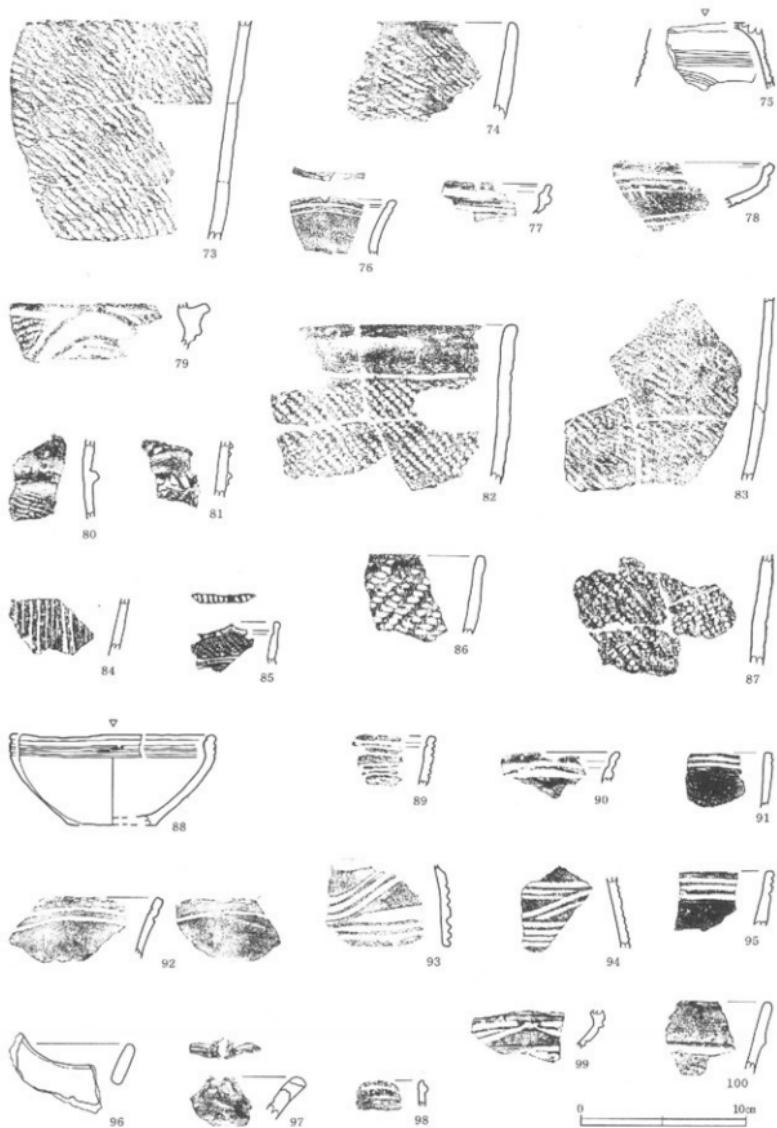
第18図 遺構内・外出土遺物(土器 1)



第19図 遺構外出土遺物(土器 2)



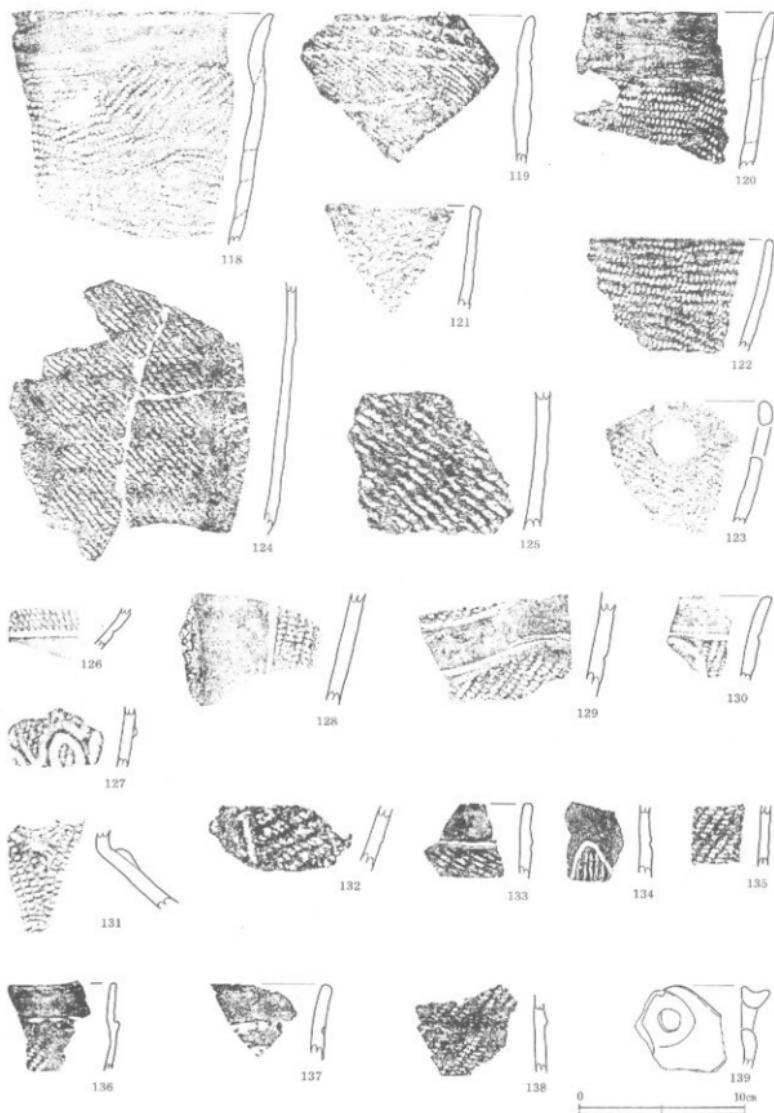
第20図 遺構外出土遺物(土器 3)



第21図 遺構外出土遺物(土器4)



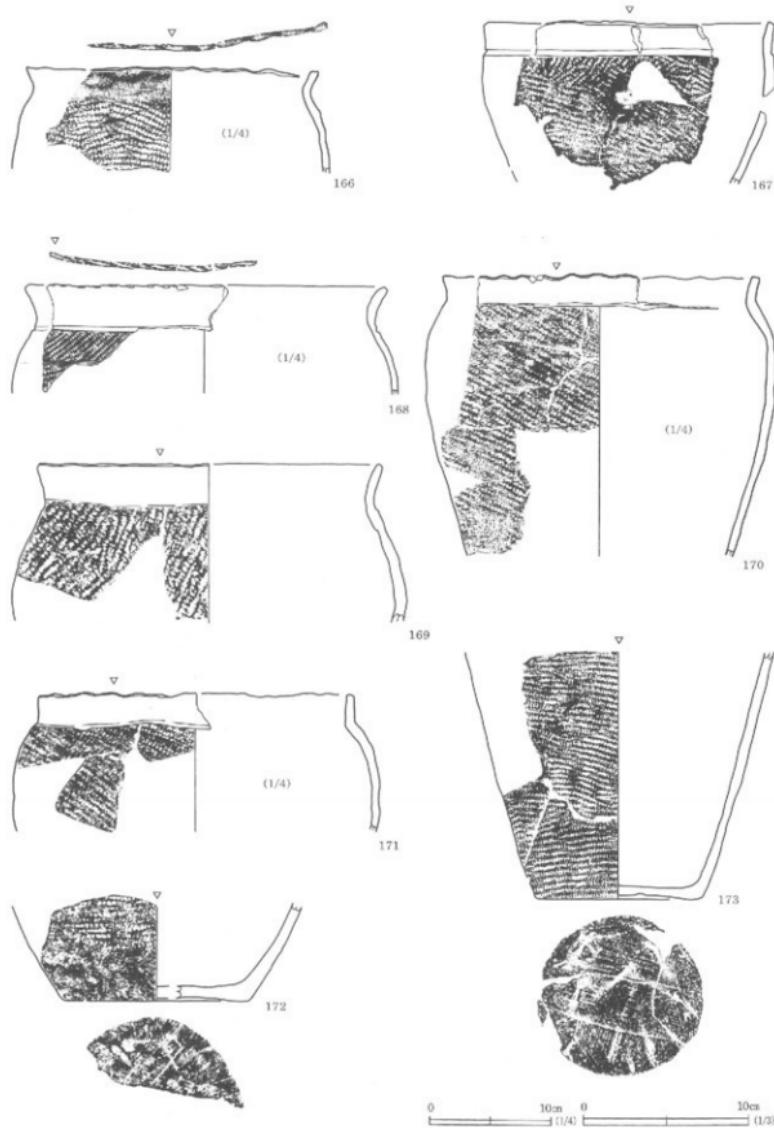
第22図 遺構外出土遺物(土器5)



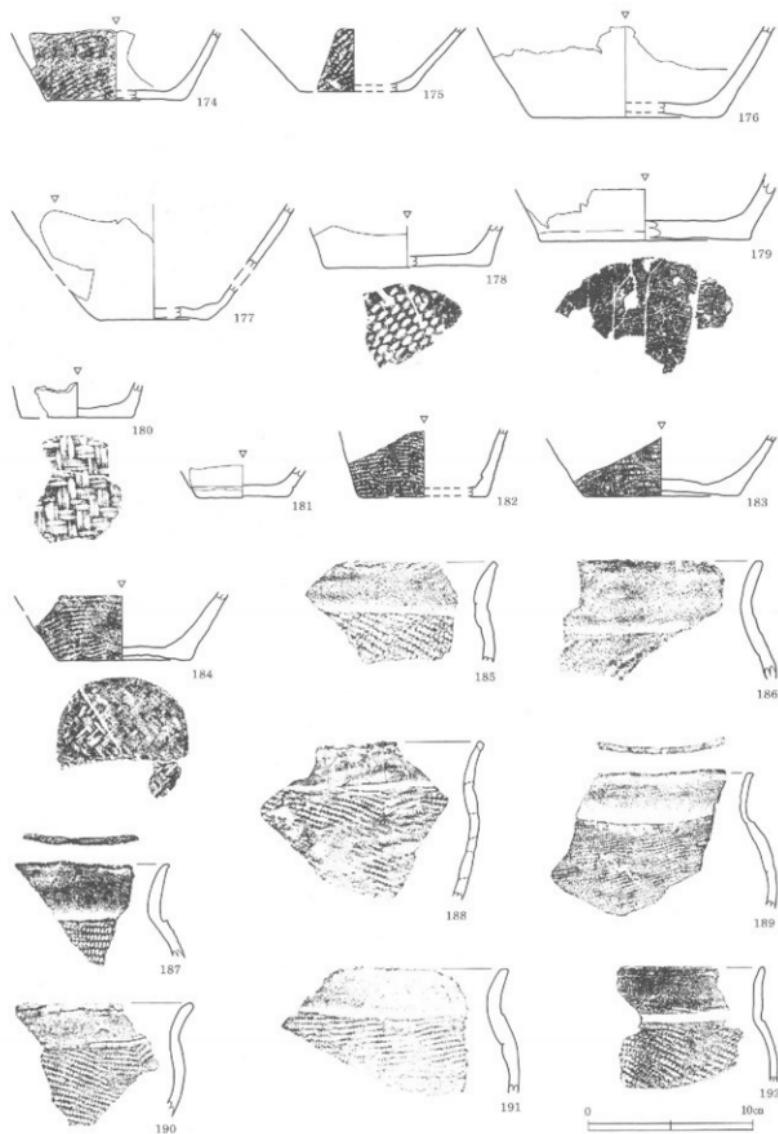
第23圖 遺構外出土遺物(土器 6)



第24図 遺構外出土遺物(土器7)



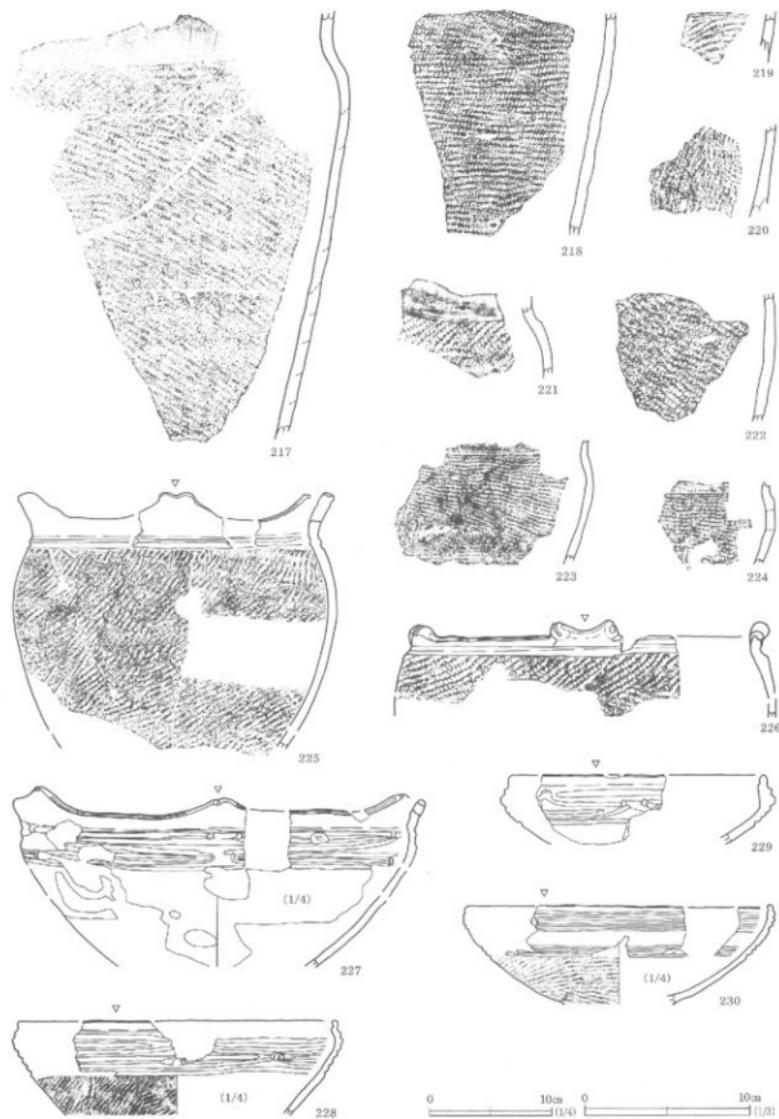
第25図 遺構外出土遺物(土器 8)



第26図 遺構外出土遺物(土器 9)



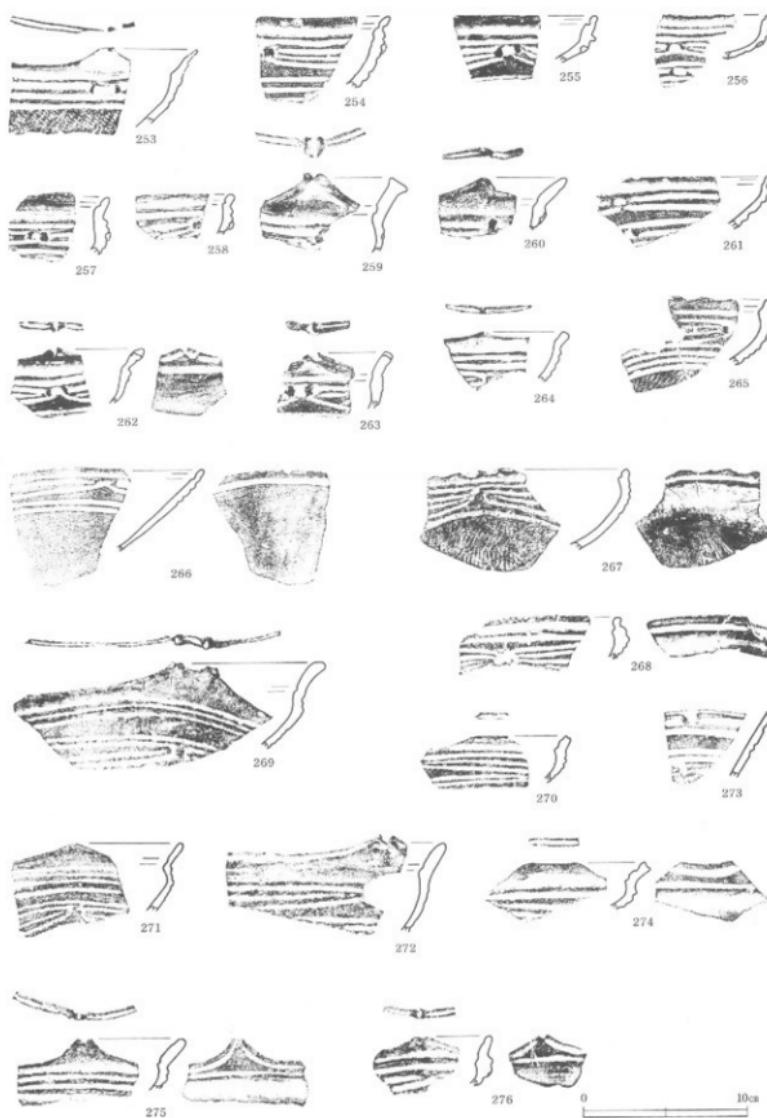
第27図 遺構外出土遺物(土器10)



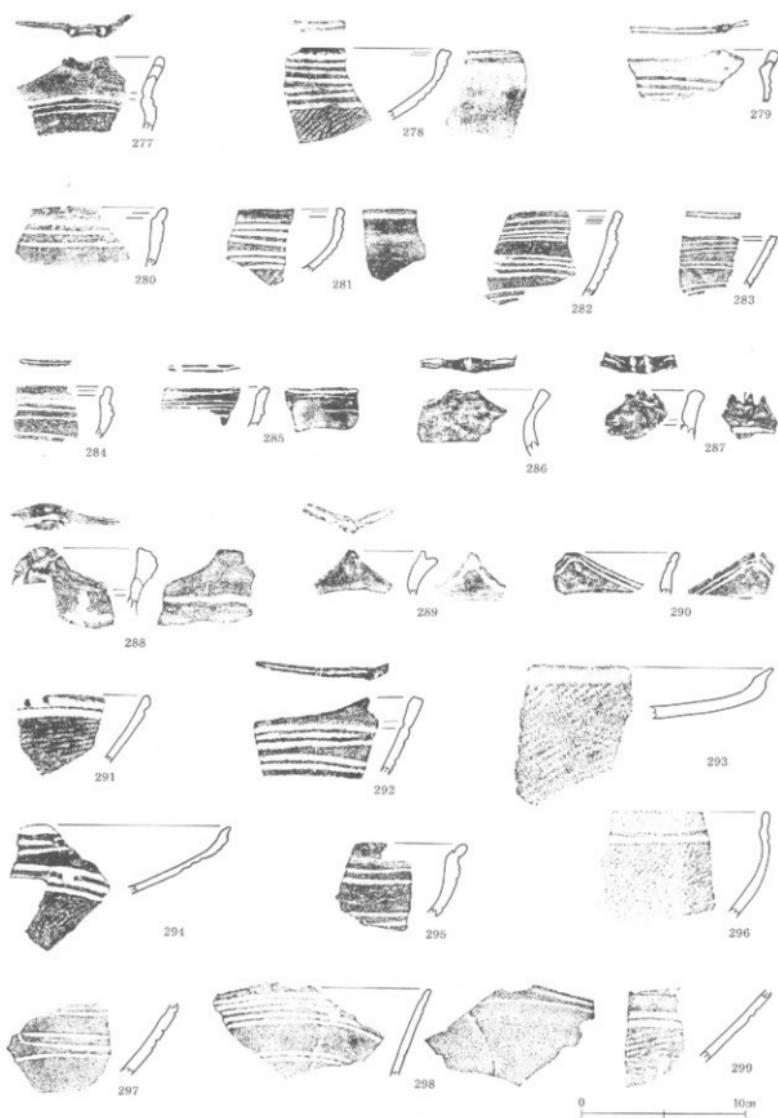
第28図 遺構外出土遺物(土器11)



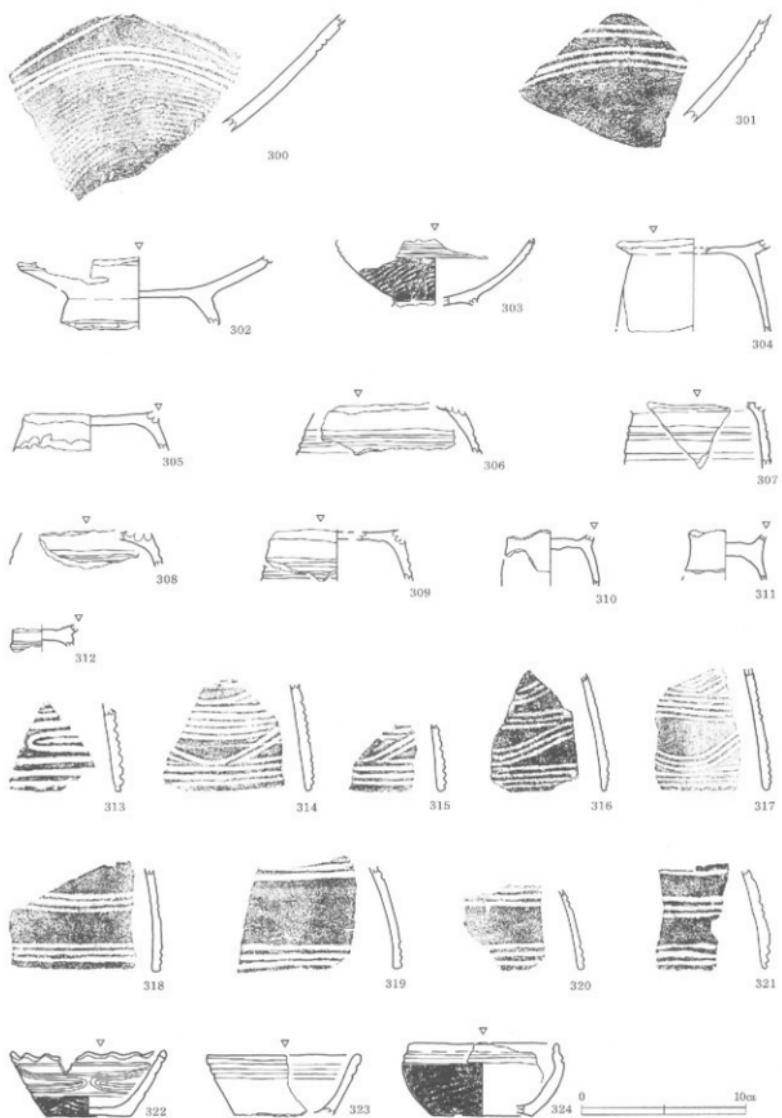
第29図 遺構外出土遺物(土器12)



第30図 遺構外出土遺物(土器13)



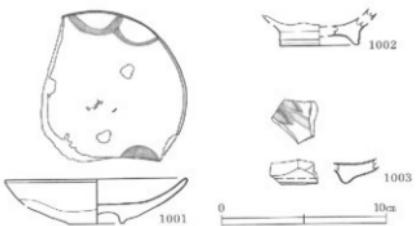
第31図 遺構外出土遺物(土器14)



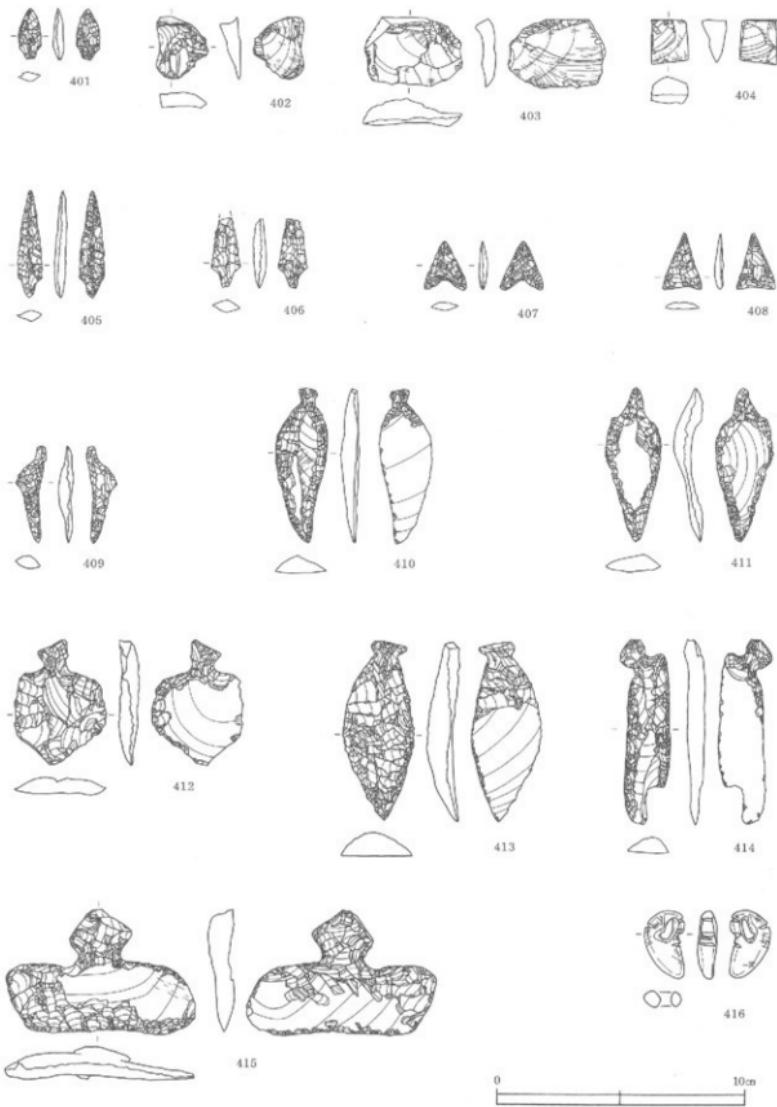
第32圖 遺構外出土遺物(土器15)



第33図 遺構外出土遺物(土器16)



第34図 遺構外出土遺物(陶磁器)



第35圖 遺構外出土遺物(石器類1)



417



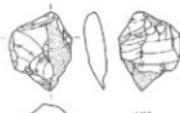
418



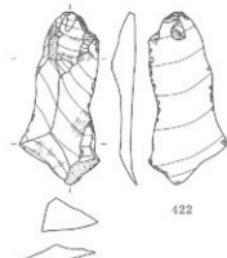
419



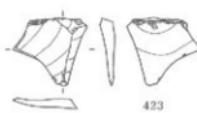
420



421



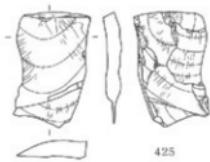
422



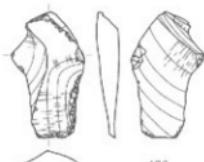
423



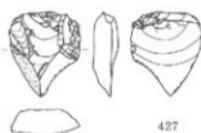
424



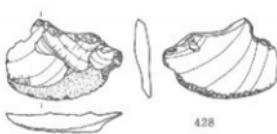
425



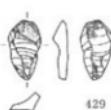
426



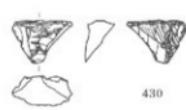
427



428



429



430



第36図 遺構外出土遺物(石器類2)

第5表 土器觀察表

器番	出土地點・層位	器種	部位	汎用		文様の特徴		分類	備考	圖版
				口径	器高	底径	V1			
1	S.K0埋土・ 浅鉢?	(ニチユア)	口縁部～体部下半	—	6.0	—	無文	—	—	18 9
2	S.K0埋土・ 浅鉢?	(ニチユア)	口縁部	—	14.3	—	IV 口縁無文、光縁	—	—	18 9
3	I.A11v・ 椚出面	深鉢	口縁部	—	11.9	—	IV 口縁部光縁(貼繩)	—	—	18 9
4	I.A11v・ 椚出面	深鉢	口縁部	—	13.9	—	IV 口縁部無文、頸部に光縁 1 条、LR	—	—	18 9
5	I.A12v・ 椚出面	浅鉢	口縁部	—	12.4	—	IV 口縁部光縁	—	—	18 9
6	I.A12v・ 椚出面	浅鉢	口縁部	—	12.2	—	IV 口縁部光縁	—	—	18 9
7	I.A12v・ 椚出面	浅鉢	口縁部	—	12.6	—	IV 光縁(透形文字)	—	—	18 9
8	I.A12v・IVa層	浅鉢	口縁部	—	12.6	—	IV 口縁部光縁	—	—	18 9
9	I.A12v・IVa層	浅鉢	口縁部	—	13.2	—	IV 口縁部光縁	—	—	18 9
10	I.A12v・IVa層	注口土器	口縁部	—	2.1	—	IV 沈縁	—	—	18 9
11	I.A12v・IVa層	浅鉢	口縁部	—	4.8	—	IV 圧縮の山形透狀口縁、口縁光縁、透形文字	—	—	18 9
12	I.A12v・IVb層	浅鉢	口縁部	—	3.9	—	IV 山形波状口縁、口縁無文、沈縁	—	—	18 9
13	I.A12v・IVb層	浅鉢	口縁部	—	2.6	—	IV 口縁無文、光縁	—	—	18 9
14	I.A12v・IVb層	深鉢	口縁部	—	5.0	—	II 透頸状透縫、沈縁、LR	—	—	18 9
15	I.A12v・IVb層	浅鉢?	口縁部～底部	(6.7)	2.9	—	VI 無文	—	—	18 9
16	I.A12v・IVc層	浅鉢	口縁部	—	2.3	—	IV 口唇部刻み列、透形工字文	—	—	18 9
17	I.A12v・IVc層	浅鉢	口縁部	—	4.0	—	IV 口唇部刻み列、透形工字文	—	—	18 9
18	I.A12v・IVc層	蓋	体部	—	3.0	—	IV 沈縁、LR	—	—	18 9
19	I.A12v・IVc層	浅鉢	口縁部	—	2.4	—	IV 口縁無文、光縫	—	—	18 9
20	I.A12v・IVa層	浅鉢	口縁部	—	3.7	—	IV 口縁無文、無文	—	—	18 9
21	I.A12v・IVb層	浅鉢	口縁部	—	4.3	—	IV 口縁沈縁	—	—	18 9
22	I.A12v・IVb層	浅鉢	口縁部	—	4.0	—	IV 大波状口縁、口縁上面前面透彌	—	—	18 9
23	I.A12x・IVa層	深鉢	口縁部	—	4.0	—	IV 口縁部光縁	—	—	18 9
24	I.A12x・IVa層	完	口縁部	—	[10.2]	—	平行線(3本1組)	—	—	18 9
25	I.A12x・IVa層	浅鉢	口縁部	—	3.4	—	IV 口縁光縫	—	—	18 9
26	I.A12x・IVb層	深鉢	口縁部	—	5.5	—	IV 口縁無文、LR	—	—	19 9
27	I.A13u・IVb層	深鉢	口縁部	—	2.6	—	IV 沈縁	—	—	19 9
28	I.A13u・IVb層	浅鉢	口縁部	—	6.6	—	IV LR	—	—	19 9
29	I.A13u・IVc層	深鉢	口縁部	—	3.6	—	IV 口縁沈縁、LR	—	—	19 9
30	I.A13u・IVc層	深鉢	口縁部	—	2.6	—	IV 透形工字文	—	—	19 9
31	I.A13u・IVc層	浅鉢	口縁部～体部下半	19.4	11.9	—	IV 口縁光縫、透形工字文(貼繩)	—	—	19 9
32	I.A13v・ 椚出面	浅鉢	口縁部	—	3.1	—	IV 口縁光縫	—	—	19 9
33	I.A13v・IVa層	浅鉢	口縁部	—	3.3	—	IV 口縁光縫(透形工字文?)	—	—	19 9
34	I.A13v・IVa層	深鉢	口縁部	—	3.9	—	V R.L	—	—	19 9
35	I.A13v・IVb層	深鉢	口縁部	—	4.5	—	V RL	—	—	19 9
36	I.A13v・IVb層	浅鉢	口縁部	—	—	—	—	—	—	19 9

図番	出土位置・回位	器種	部位	法量(cm)		文様の特徴		備考	国数	写版
				口径	器高	分類	山形波状口縁、R L			
37	II A13 v N b 層	深鉢	口縁部	(21.4)	[11.3]	—	V	II A13波士と複合	19	9
38	II A13 v N b 層	深鉢	口縁部～体部下半	(21.2)	[30.4]	—	V R L	62と接合	19	9
39	II A13 v N b 層	深鉢	口縁部～体部下半	(13.9)	[13.4]	—	V	口縁波状、LR	19	10
40	II A13 v N b 層	高环	体部下半～脚部	—	[2.7]	—	V	口縁波状、LR	19	10
41	II A13 v N b 層	鉢?	—	—	—	—	V	田間道23号、324と接合	19	10
42	II A13 v N b 層	深鉢	口縁部	—	[2.3]	—	V	口縁外面部突起	19	10
43	II A13 v N b 層	深鉢	口縁部	—	[2.3]	—	V	口縁丸目	19	10
44	II A13 v N b 層	深鉢	口縁部	—	[2.1]	—	V	口縁波状、菱形工字文(貼付)	19	10
45	II A13 v N b 層	深鉢?	体部	—	[3.4]	—	V	口縁波状、菱形工字文(貼付)	19	10
46	II A13 v N b 層	深鉢	体部	—	[4.2]	—	V	口縁波状	19	10
47	II A13 v N c 層	深鉢	口縁部	—	[2.7]	—	V	口縁丸目	19	10
48	II A13 v N c 層	深鉢	口縁部	—	[7.3]	—	V	連鎖状波線	20	10
49	II A13 v N c 層	深鉢	口縁部	—	[4.6]	—	V	連鎖状波線	20	10
50	II A13 w 出面	深鉢?	口縁部	—	[2.5]	—	V	沈鉢	20	10
51	II A13 w 出面	深鉢	口縁部	—	[1.6]	—	V	II Rの後ナデ面文が墨書きされている	20	10
52	II A13 w 出面	深鉢?	口縁部	—	[6.8]	—	V	細く直い条線	20	10
53	II A13 w 出面	浅鉢	口縁部	—	[3.3]	—	V	II Rの後ナデ面文	20	10
54	II A13 w 出面	浅鉢	体部	—	[4.2]	—	V	沈鉢	20	10
55	II A13 w 出面	浅鉢	口縁部	—	[2.4]	—	V	口縁丸目	20	10
56	II A13 w 出面	高环	口縁部	—	[2.5]	—	V	口縁丸目	20	10
57	II A13 w N a 層	鉢?	脚部	—	[4.6]	—	V	口縁丸目	20	10
58	II A13 w N b 層	鉢	体部	—	[13.0]	—	V	無文	20	10
59	II A13 w N b 層	深鉢	口縁部～体部下半	(16.6)	[5.9]	—	V	細く深い条線	20	10
60	II A13 w N b 層	深鉢	口縁部～体部下半	(14.9)	[6.6]	—	V L R	II A13 w N c 層(a, c)と接合	20	10
61	II A13 w N b 層	深鉢	口縁部	—	[3.7]	—	V	刻みの山形波状口縁	20	10
62	II A13 w N b 層	深鉢	口縁部	—	[3.1]	—	V	光線	20	10
63	II A13 w N b 層	鉢	体部	—	[4.4]	—	V	沈鉢、変形工字文	20	10
64	II A13 w N c 層	高环	脚部	—	[4.1]	—	V	平行波線(3本1組)	20	10
65	II A13 x N a 層	鉢?	口縁部	—	[1.7]	—	V	光線	20	10
66	II A13 x N b 層	浅鉢	口縁部～底部	(10.2)	[4.9]	—	V	沈鉢、LR	20	10
67	II A13 x N b 層	鉢?	口縁部	—	[4.4]	—	V	刻みの山形波状口縁、変形工字文(貼付)	20	10
68	II A13 x N c 層	深鉢	口縁部	—	[3.5]	—	V R L	20	10	
69	II A13 y N a 層	鉢	口縁部	—	[3.3]	—	V	沈鉢	20	10
70	II A14 u N a 层	深鉢	口縁部	—	[3.6]	—	V	細く深い条線	20	10
71	II A14 u N b 層	深鉢	体部	—	[9.4]	—	V L R ?	20	10	
72	II A14 u N b 層	深鉢	口縁部	—	[8.1]	—	V L R	20	10	

器番	出土位置・属性	器種	部位	法量(cm)		文様の特徴		参考	写版
				口径	器高	分類	L.R		
73	II A14u N c 瓢	深鉢	体部	—	13.5	—	V	II A14v N b 瓢と接合	21 10
74	II A14u N b 瓢	深鉢	口縁部	—	16.0	—	V L.R	—	21 10
75	II A14u N c 瓢	高杯	脚部	—	[4.1]	—	IV 滴状文字(3本1組付縫)	—	21 10
76	II A14u N c 瓢	蓋?	口縁部	—	[3.4]	—	IV 滴状文字(3本1組付縫)	—	21 10
77	II A14v N a 瓢	浅鉢	口縁部	—	[1.8]	—	IV 滴状	—	21 10
78	II A14v N a 瓢	深鉢	口縁部	—	[3.6]	—	IV 变形文字	—	21 10
79	II A14v N b 瓢	深鉢	体部	—	[3.0]	—	I	—	21 10
80	II A14v N b 瓢	深鉢	体部	—	[4.7]	—	II 脚突文	—	21 10
81	II A14v N b 瓢	深鉢	体部	—	[3.4]	—	II 脚突文	—	21 10
82	II A14v N b 瓢	深鉢	口縁部	—	[9.8]	—	V L.R	—	21 10
83	II A14v N b 瓢	深鉢	体部	—	[11.3]	—	V R.L	II A14v N c 瓢(a, b)と接合	21 11
84	II A14v N b 瓢	深鉢	体部	—	[3.5]	—	IV 滴状文字	—	21 11
85	II A14v N b 瓢	深鉢	口縁部	—	[2.5]	—	IV 刺繍のある山形波状口縫	—	21 11
86	II A14v N b 瓢	深鉢	口縁部	—	[4.7]	—	V R.L	—	21 11
87	II A14v N b 瓢	深鉢	体部	—	[6.5]	—	V L.R	—	21 11
88	II A14v N b 瓢	深鉢	口縁部下半	(12.6)	5.65	5.2	II 平行波縫	—	21 11
89	II A14v N b 瓢	深鉢	口縁部	—	[3.1]	—	II 滴状、変形工字文	—	21 11
90	II A14v N b 瓢	深鉢	口縁部	—	[1.9]	—	II 滴状	—	21 11
91	II A14v N b 瓢	浅鉢	口縁部	—	[3.4]	—	II 滴状	—	21 11
92	II A14v N b 瓢	浅鉢	口縁部	—	[3.8]	—	II 滴状	—	21 11
93	II A14v N b 瓢	高杯	脚部	—	[5.0]	—	II 滴状文字(3本1組付縫)	—	21 11
94	II A14v N b 瓢	高杯	脚部	—	[4.3]	—	II 滴状工字文(3本1組付縫)	—	21 11
95	II A14v N b 瓢	深鉢	口縁部	—	[3.3]	—	II 滴状	—	21 11
96	II A14v N c 瓢	深鉢?	口縁部	—	[4.9]	—	II 无文	—	21 11
97	II A14v N a 瓢	深鉢?	口縁部	—	[2.6]	—	IV 刺繍のある山形波状口縫	—	21 11
98	II A14w N a 瓢	行灯鉢	口縁部	—	[1.6]	—	IV 滴状文字(付縫)	—	21 11
99	II A14w N b 瓢	深鉢	体部	—	[2.3]	—	IV 滴状	—	21 11
100	II A14x N c 瓢	深鉢	口縁部	—	[4.4]	—	IV 滴状	—	21 11
101	II A15v N a 瓢	深鉢	口縁部	—	[9.6]	(14.2)	V L.R	112と接合	22 11
102	II A15v N a 瓢	深鉢	口縁部	—	[2.8]	—	IV 滴状	—	22 11
103	II A15v N a 瓢	深鉢	口縁部	—	[3.9]	—	IV 刺繍のある山形波状口縫、沈縫	—	22 11
104	II A15v N b 瓢	深鉢	底部	—	[2.6]	7.8	IV 无文	—	22 11
105	II A15v N c 瓢	深鉢	底部	—	[2.3]	—	IV 滴状	—	22 11
106	II A15v N b 瓢	高杯	脚部	—	[6.3]	—	IV 滴状文字(3本1組付縫)	—	22 11
107	II A15v N c 瓢	深鉢	口縁部	—	[5.1]	—	V R.L	—	22 11
108	II A15v N c 瓢	浅鉢	口縁部	—	[3.5]	—	IV 滴状	—	22 11

図番	出土位置・層位	器種	部位	法量(cm)		分類	備考	圖版	写版
				口径	底径				
109	II A15y N a層	深鉢	口縁部	—	[3.7]	IV	脚みの山形透かし口縁。口縁部無文。LR	22	11
110	II A16w N a層	深鉢	体部	[3.1]	—	V	—	22	11
111	II A16w N a層	深鉢	体部	[6.7]	—	V	RL	22	11
112	II A17w N a層	深鉢	体部	[5.5]	—	V	RL	22	11
113	II A17x N a層	壺	体部	[4.0]	—	IV	沈縫	22	11
114	II A17x N a層	深鉢	口縁部	[4.3]	—	IV	—	22	11
115	II A18x N a層	深鉢	口縁部・側面	[11.0]	[14.05]	IV	脚みの山形透かし口縁。口縁部無文。左側。LR	22	11
116	II A18x N a層	深鉢	口縁部	[6.0]	—	V	縦・横き浅縫	22	11
117	II A18x N a層	深鉢	体部	[5.3]	—	V	RL	22	11
118	II 河道 1号層	深鉢	口縁部	[14.3]	—	IV	口縁部無文。LR	23	11
119	II 河道 1号色土	深鉢	口縁部	[9.1]	—	IV	RL?	23	11
120	II 河道 1号地	深鉢	口縁部	[9.6]	—	V	LR	23	11
121	T13表土	深鉢	口縁部	[6.3]	—	V	LR	23	11
122	田原遺 2 黒色土	深鉢	口縁部	[6.9]	—	V	LR	23	11
123	田原遺 1号層	深鉢	体部	[7.5]	—	II	中空突起。LR。	23	11
124	T13表土	深鉢	体部	[15.6]	—	V	LR	23	12
125	T13表土	深鉢	口縁部	[8.5]	—	V	LR	23	12
126	田河遺 1号層	深鉢	体部	[2.8]	—	I	沈縫による区画(内部は解剖)。RL	23	12
127	田河遺 1号地	深鉢	体部	[3.6]	—	I	—	23	12
128	田河遺 1号リックト	深鉢	体部	[6.8]	—	I	沈縫による区画(内部は解剖)。RL	23	12
129	田河遺 1号色土	深鉢	体部	[6.4]	—	I	沈縫による区画(内部は解剖)。RL	23	12
130	田河遺 2号色土	深鉢	口縁部	[5.1]	—	I	口縁無文。沈縫による区画(内部は解剖)。RL	23	12
132	田河遺 1号色土	深鉢	体部	[3.9]	—	V	RL	23	12
133	T13表土	深鉢	口縁部	[4.6]	—	II	沈縫。LR	23	12
134	T13表土	深鉢	体部	[4.5]	—	V	RL	23	12
135	T13表土	深鉢	体部	[3.7]	—	V	RL	23	12
136	T13表土	深鉢	口縁部	[5.4]	—	II	沈縫の埋起。RL	23	12
137	田河遺 1号色土	深鉢	口縁部	[4.6]	—	II	口縁無文。側突	23	12
138	T13表土	深鉢	体部	[4.7]	—	V	RL	23	12
139	田河遺 1号砂層	深鉢	口縁部	[5.3]	—	II	中空突起	23	12
140	田河遺 1号砂層	深鉢	体部	[4.2]	—	II	沈縫の埋起。RL	24	12
141	田河遺 1号砂層	深鉢	体部	[4.4]	—	II	—	24	12
142	田河遺 1号 1号透影層	深鉢	体部	[3.6]	—	II	沈縫の埋起。RL	24	12
143	田河遺 1号砂層	深鉢	口縁部	[5.1]	—	II	透鏡状焼坑	24	12
144	田河遺 1号砂層	深鉢	体部	[3.8]	—	II	透鏡状焼坑。RL	24	12
145	田河遺 1号地	深鉢	体部	[3.8]	—	II	透鏡状焼坑	24	12

器番	出土位置・層位	器種	部位	量 (cm)			文様の特徴		備考	写版
				上径	下径	厚さ	飾り	分類		
146	田町遺2黑色土	深鉢	口縁部	—	5.4	—	II	脚突, L, R		24 12
147	田町遺2黑色土	深鉢	口縁部	—	4.7	—	II	脚突, L, R		24 12
148	T13表土	深鉢	口縁部	—	6.6	—	II	脚突, L, R		24 12
149	田町遺2黑色土	深鉢	口縁部	—	3.6	—	II	脚突, L, R		24 12
150	田町遺2黑色土	深鉢	口縁部	—	4.6	—	II	脚突, L, R		24 12
151	田町遺1北側竪山地	深鉢	口縁部	—	4.4	—	II	脚突, L, R		24 12
152	田町遺1砂層	深鉢	口縁部	—	3.8	—	II	脚突, L, R		24 12
153	田町遺1沙層	深鉢	口縁部	—	3.6	—	II	脚突, L, R		24 12
154	田町遺1沙層	深鉢	口縁部	—	3.2	—	II	脚突, L, R		24 12
155	田町遺1沙層	深鉢	口縁部	—	2.7	—	II	脚突, L, R		24 12
156	田町遺2黑色土上層	深鉢	口縁部	—	3.1	—	II	脚突, L, R		24 12
157	田町遺2黑色土上層	深鉢	口縁部?	—	3.5	—	II	中空突起		24 12
158	田町遺1沙層	深鉢	口縁部	—	5.1	—	II	脚突, L, R		24 12
159	田町遺1沙層	深鉢	口縁部	—	6.5	—	II	脚突, L, R		24 12
160	田町遺1沙層	深鉢	口縁部	—	4.5	—	II	脚突, L, R		24 12
161	田町遺1沙層	深鉢	口縁部	—	5.0	—	II	脚突, L, R		24 12
162	田町遺1黑色土	盞	口縁部	(10.7)	4.6	—	IV	臺灣松木口輪, 刷毛		24 12
164	田町遺1沙層	浅鉢	口縁部	—	3.5	—	IV	臺灣松木口輪, 刷毛		24 12
165	田町遺1沙層	浅鉢	口縁部	—	3.0	—	IV	臺灣松木口輪, 刷毛		24 12
166	田町遺1沙層	浅鉢	口縫前～体部	(23.6)	8.5	—	IV	口縫無文, L, R		25 12
167	田町遺1沙層	浅鉢	口縫前～体部	(17.7)	[10.4]	—	IV	口縫無文, L, R		25 12
168	田町遺1黒色土	深鉢	口縫前～体部	(29.3)	8.9	—	IV	口縫無文, L, R		25 13
169	田町遺1黒色土裏	深鉢	口縫前～体部	(21.0)	9.8	—	IV	口縫無文, L, R		25 13
170	田町遺1砂層	深鉢	口縫前～体部下半	(25.6)	23.4	—	IV	口縫無文, L, R		25 13
171	田町遺1砂層	深鉢	口縫前～体部	(25.6)	11.6	—	IV	口縫無文, L, R		25 13
172	田町遺1砂層	深鉢	口縫前～体部	(0.6)	(11.4)	—	IV	口縫無文, L, R		25 13
173	田町遺1砂層	深鉢	体部下半～底部	[15.4]	10.0	IV	口縫無文, L, R		25 13	
174	田町遺1砂層	深鉢	底部	[4.2]	—	IV	口縫無文, L, R		25 13	
175	田町遺1砂層	深鉢	底部	—	3.9	(6.4)	IV	口縫無文, L, R		25 13
176	田町遺1砂層	深鉢	底部	—	5.6	(11.6)	IV	口縫無文, L, R		25 13
177	田町遺1少く沙質面	深鉢	底部	—	6.9	(6.6)	IV	無文		26 13
178	T14東側突出部	深鉢	底部	—	12.4	(10.0)	IV	無文。底部に網代底		26 13
179	T13東側突出部	深鉢	底部	—	3.2	(12.8)	IV	無文。底部に木葉模		26 13
180	田町遺1沙層	深鉢	底部	—	2.2	—	IV	無文。底部に網代底		26 13
181	田町遺1沙層	深鉢	底部	—	2.0	5.8	IV	口縫無		26 13
182	田町遺2白色土	深鉢	底部	—	(4.1)	(7.8)	IV	R, L		26 13

器番	出土位置・層位	器種	部色	口径	文様の特徴			備考	出版
					分類	器高	R.L.		
183	田河遺1・2黑色上	深鉢	底黒	—	(3.6)	(9.5)	N	—	26 13
184	田河遺1・2黒ト東	深鉢	底黒	—	(4.0)	(8.2)	N	I.R. 正側面輪代文	26 13
185	田河遺1・2砂層	深鉢	口縁部	—	(6.1)	—	N	口縁無文 X. L.R	26 13
186	田河遺1・2砂層	深鉢	口縁部	—	(7.3)	—	N	口縁無文 X. L.R	26 13
187	田河遺1・2砂層	深鉢	口縁部	—	(5.7)	—	N	口縁無文 X. L.R	26 13
188	田河遺1・2砂層	深鉢	口縁部	—	(9.8)	—	N	口縁無文 X. L.R	26 14
189	田河遺1・2砂層	深鉢	口縁部	—	(8.3)	—	N	口縁無文 X. L.R	26 14
190	田河遺1・2砂層	深鉢	口縁部	—	(7.0)	—	N	口縁無文 X. L.R	26 14
191	田河遺1・2砂層	深鉢	口縁部	—	(7.7)	—	N	口縁無文 X. L.R	26 14
192	田河遺1・2砂層	深鉢	口縁部	—	(7.0)	—	N	口縁無文 X. L.R	26 14
193	田河遺1・2砂層	深鉢	口縁部	—	(10.5)	—	N	口縁無文 X. L.R	27 14
194	田河遺1・2砂層	深鉢	口縁部	—	(7.8)	—	N	口縁無文 X. L.R	27 14
195	T.13表土上	深鉢	口縁部	—	(6.0)	—	N	口縁無文 X. L.R	27 14
196	田河遺1・2砂層	深鉢	口縁部	—	(4.7)	—	N	口縁無文 X. L.R	27 14
197	田河遺1・2削出面	深鉢	口縁部	—	(4.5)	—	N	口縁無文 X	27 14
198	田河遺1・2砂層	深鉢	口縁部	—	(7.2)	—	N	口縁無文 X. L.R	27 14
199	田河遺1・2砂層	深鉢	口縁部	—	(5.6)	—	N	刻みの山形変状口縁。口縁無文。I.R	27 14
200	田河遺1・2砂層	深鉢	口縁部	—	(5.1)	—	N	刻みの山形変状口縁。口縁無文。I.R	27 14
201	田河遺1・2砂層	深鉢	口縁部	—	(6.1)	—	N	刻みの山形変状口縁。口縁無文。I.R	27 14
202	田河遺1・2砂層	深鉢	口縁部	—	(5.0)	—	N	口縁無文。放脚。I.R	27 14
203	田河遺1・2砂層	深鉢	口縁部	—	(4.7)	—	N	刻みの山形変状口縁。口縁無文。I.R	27 14
204	田河遺1・2削出面	深鉢	口縁部	—	(7.1)	—	N	山形変状口縁。口縁無文。I.R	27 14
205	田河遺1・2砂層	深鉢	口縁部	—	(5.4)	—	N	刻みの山形変状口縁。口縁無文。I.R	27 14
206	田河遺1・2砂層	深鉢	口縁部	—	(4.1)	—	N	刻みの山形変状口縁。口縁無文。I.R	27 14
207	田河遺1・2砂層	深鉢	口縁部	—	(4.8)	—	N	刻みの山形変状口縁。口縁無文。I.R	27 14
208	田河遺1・2砂層	深鉢	口縁部	—	(5.1)	—	N	刻みの山形変状口縁。口縁無文。I.R	27 14
209	田河遺1・2砂層	深鉢	口縁部	—	(4.1)	—	N	刻みの山形変状口縁。口縁無文。I.R	27 14
210	田河遺1・2削出面	深鉢	口縁部	—	(3.7)	—	N	刻みの山形変状口縁。口縁無文	27 14
211	田河遺1・2砂層	深鉢	口縁部	—	(6.0)	—	N	口縁部無文	27 14
212	田河遺1・2砂層	深鉢	口縁部	—	(5.6)	—	N	無文	27 14
213	田河遺1・2砂層	深鉢	口縁部	—	(6.8)	—	N	I.R.	27 14
214	田河遺1・2砂層	深鉢	口縁部	—	(5.8)	—	N	I.R.	27 14
215	田河遺1・2砂層	深鉢	口縁部	—	(5.0)	—	N	I.R.	27 14
216	田河遺1・2砂層	深鉢	口縁部	—	(6.0)	—	N	I.R.	27 14
217	田河遺1・2砂層	深鉢	体部	—	(26.5)	—	N	I.R.	28 14
218	T.13表土上	深鉢	体部	—	(13.8)	—	N	I.R.	28 15

器番	出土位置・層位	器種	部位	口径	法量(cm)	文様の特徴		備考	図版
						器高	底径		
219	田河通1砂層	深井	体部	—	[3.1]	—	N	L.R	28
		浅井	体部	—	[5.6]	—	N	L.R	28
220	田河通2黒色土	深井	体部	—	[5.0]	—	N	口縁無し。L.R	28
221	田河通1砂層	浅井	体部	—	[7.8]	—	N	L.R	28
222	田河通1砂層	深井	体部	—	[7.6]	—	N	脚部洗練。R.L.	28
223	田河通2黒色土	深井	体部	—	[5.1]	—	N	頭部洗練。R.L.	28
224	田河通2黒色土	深井	口縁部～体部下半	[19.2]	[15.8]	—	N	肩のみの山形波状口縁。山腹部波文。頭部洗練。L.R.	28
225	田河通1砂層	深井	口縁部～体部下半	[22.0]	[5.6]	—	N	肩のみの山形波状口縁。山腹部波文。頭部洗練。L.R.	28
226	田河通1砂層	浅井	口縁部～体部下半	[33.9]	[14.9]	—	N	肩のみの山形波状口縁。変形工字文(點繪)	田河通1奥山面と接合
227	田河通1砂層	深井	口縁部～体部下半	[26.0]	[7.8]	—	N	変形工字文(點繪)。	I A 3 q + 3 斜溝・37と接合
228	田河通1砂層	浅井	口縁部～体部下半	[15.7]	[4.25]	—	N	変形工字文(點繪)。	田河通1砂層
229	田河通1砂層	深井	口縁部～体部下半	[24.6]	[8.2]	—	N	変形工字文(點繪)。洗練。L.R.	田河通13脚・301と接合
230	田河通1砂層	浅井	口縁部～体部下半	[23.7]	[9.5]	—	N	変形工字文(點繪)	田河通13脚・301と接合
231	田河通1砂層	深井	口縁部～体部下半	[16.9]	[4.3]	—	N	変形工字文(點繪)	田河通13脚・301と接合
232	田河通1黒色土層	浅井	口縁部～体部下半	[21.0]	[2.7]	—	N	変形工字文	29
233	田河通1砂層	深井	口縁部～体部下半	[19.7]	[5.4]	—	N	変形工字文(點繪)。L.R.	29
234	田河通1砂層	浅井	口縁部～体部下半	[15.5]	[4.0]	—	N	変形工字文	29
235	田河通1砂層	深井	口縁部～体部下半	[18.1]	[2.8]	—	N	変形工字文	29
236	田河通1黒色土層	深井	口縁部～体部下半	[12.3]	[4.8]	—	N	変形工字文	29
237	田河通1砂層	深井	口縁部～体部下半	[13.8]	[—]	N	山形波状口縁。口縁無し文。	29	
238	田河通1砂層	浅井	口縁部	[3.5]	[—]	N	山形波状口縁。口縁無し文。	29	
239	田河通1砂層	浅井	口縁部	[6.2]	[—]	N	肩のみの山形波状口縁。口縫部無文。変形工字文。	29	
240	田河通1黒色土層	深井	口縁部	[4.7]	[—]	N	山形波状口縁。口縫部無文。変形工字文。	29	
241	田河通1砂層	深井	口縁部	[5.2]	[—]	N	変形工字文	29	
242	田河通2黒色土	浅井	口縁部	[5.4]	[—]	N	口縫無文。変形工字文	29	
243	田河通1砂層	深井	口縁部	[4.0]	[—]	N	口縫無文。変形工字文	29	
244	田河通2黒色土	浅井	口縁部	[3.8]	[—]	N	口縫無文。変形工字文	29	
245	田河通1砂層	浅井	口縁部	[3.5]	[—]	N	口縫無文。変形工字文	29	
246	田河通1砂層	深井	口縁部	[4.7]	[—]	N	肩のみの山形波状口縁。洗練	29	
247	田河通1黒色土	深井	口縁部	[5.2]	[—]	N	洗練	29	
248	田河通1砂層	深井	口縁部	[4.9]	[—]	N	変形工字文	29	
249	田河通1奥山面	深井	口縁部	[3.8]	[—]	N	変形工字文	29	
250	田河通1砂層	浅井	口縫部	[3.3]	[—]	N	洗練	29	
251	田河通1砂層	浅井	口縫部	[2.8]	[—]	N	洗練	29	
252	田河通13脚七	深井	口縫部	[2.6]	[—]	N	洗練	29	
253	田河通1砂層	深井	口縫部	[5.9]	[—]	N	肩のみの山形波状口縁。口縫無文。変形工字文。L.R.	30	
254	田河通1砂層	深井	口縫部	[4.3]	[—]	N	変形工字文(點繪)	30	

圖書	出土位置・層位	器物	部位	口徑部 底面 高さ(cm)	分類	文様の特徴		参考	國版
						此蓋	此底		
255	田河通1.砂層	浅林	口縁部	—	IV 変形丁字文(點端)	—	IV 変形丁字文(點端)	—	30 16
256	田河通1.砂層	浅林	口縁部	(2.3)	IV 変形丁字文(點端)	—	IV 変形丁字文(點端)	—	30 16
257	田河通1.砂層	浅林	口縁部	(3.4)	IV 変形丁字文(點端)	—	IV 変形丁字文(點端)	—	30 16
258	田河通1.砂層	浅林	口縁部	(2.5)	IV 変形丁字文(點端)	—	IV 変形丁字文(點端)	—	30 16
259	田河通1.砂層 T13南側面3.3層	浅林	口縁部	(4.6)	IV 変形丁字文(點端)	—	IV 変形丁字文(點端)	—	30 16
260	田河通1.砂層	浅林	口縁部	(3.2)	IV 山形波状口縁	—	IV 山形波状口縁	—	30 16
261	田河通1.砂層	浅林	口縁部	(3.2)	IV 山形波状口縁	—	IV 山形波状口縁	—	30 16
262	田河通1.砂層	浅林	口縁部	(3.2)	IV 変形丁字文	—	IV 変形丁字文	—	30 16
263	田河通1.砂層	浅林	口縁部	(3.5)	IV 変形丁字文	—	IV 変形丁字文	—	30 16
264	田河通1.砂層	浅林	口縁部	(3.0)	IV 山形波状口縁	—	IV 山形波状口縁	—	30 16
265	田河通1.底面	浅林	口縁部	(4.4)	IV 変形丁字文	—	IV 変形丁字文	—	30 16
266	田河通1.砂層	浅林	口縁部	(6.0)	IV 変形丁字文	—	IV 変形丁字文	—	30 16
267	田河通1.砂層	浅林	口縁部	(5.5)	IV 変形丁字文	—	IV 変形丁字文	—	30 16
268	田河通1.黑色土	浅林	口縁部	(2.5)	IV 変形丁字文	—	IV 変形丁字文	—	30 16
269	田河通1.砂層	浅林	口縁部	(5.3)	IV 波端、変形丁字文	—	IV 波端、変形丁字文	—	30 16
270	田河通1.砂層	浅林	口縁部	(2.5)	IV 変形丁字文	—	IV 変形丁字文	—	30 16
271	田河通1.底面	浅林	口縁部	(4.1)	IV 山形波状口縁	—	IV 山形波状口縁	—	30 16
272	田河通1.砂層	浅林	口縁部	(15.5)	IV 変形丁字文	—	IV 変形丁字文	—	30 16
273	田河通1.底面	浅林	口縁部	(4.1)	IV 山形波状口縁	—	IV 山形波状口縁	—	30 16
274	田河通1.砂層	浅林	口縁部	(2.7)	IV 変形丁字文	—	IV 変形丁字文	—	30 16
275	田河通1.砂層	浅林	口縁部	(3.1)	IV 変形丁字文	—	IV 変形丁字文	—	30 16
276	田河通1.砂層	浅林	口縁部	(3.0)	IV 変形丁字文	—	IV 変形丁字文	—	30 16
277	田河通1.砂層	浅林	口縁部	(4.6)	IV 2.刻1輪の突起をもつ山形波状口縁	—	IV 2.刻1輪の突起をもつ山形波状口縁	—	31 16
278	田河通1.砂層	浅林	口縁部	(3.4)	IV 江綾、L.R.	—	IV 江綾、L.R.	—	31 16
279	田河通1.砂層	浅林	口縁部	(3.2)	IV 山形波状口縁	—	IV 山形波状口縁	—	31 16
280	田河通1.砂層	浅林	口縁部	(3.6)	IV 沈縫	—	IV 沈縫	—	31 16
281	田河通1.砂層	浅林	口縁部	(3.7)	IV 変形丁字文	—	IV 変形丁字文	—	31 16
282	田河通1.砂層	浅林	口縁部	(5.2)	IV 沈縫	—	IV 沈縫	—	31 16
283	T16西側	浅林	口縁部	(3.2)	IV 変形丁字文	—	IV 変形丁字文	—	31 16
284	田河通1.砂層	浅林	口縁部	(3.2)	IV 沈縫	—	IV 沈縫	—	31 16
285	田河通2.黑色土	浅林	口縁部	(2.5)	IV 変形丁字文?	—	IV 変形丁字文?	—	31 16
286	T13南側面3.3層	浅林	口縁部	(4.1)	IV 山形波状口縁	—	IV 山形波状口縁	—	31 16
287	T13南側面3.3層	浅林	口縁部	(3.0)	IV 刻2.0の山形波状口縁?	—	IV 刻2.0の山形波状口縁?	—	31 16
288	田河通1.砂層	浅林	口縁部	(4.1)	IV 波端の丸い山形波状口縁	—	IV 波端の丸い山形波状口縁	—	31 16
289	田河通1.ベルト草	浅林	口縁部	(2.7)	IV 山形波状口縁	—	IV 山形波状口縁	—	31 16

図番	廿七位匿・脚位	器種	部位	法量(cm)			分類	文様の特徴	備考	国版	写版
				口徑	深浅	W					
290	廿四道 2 黒色土	浅鉢	口縁部	[2.6]	—	IV	口縁を瓦面するかのような比縫	—	—	31	16
291	廿四道 1 北側突出面	浅鉢	口縁部	[4.2]	—	IV	垂形文字と L.R	—	—	31	16
292	廿四道 1 北側突出面	浅鉢	口縁部	[4.7]	—	IV	山形斜切口縁、沈線	—	—	31	17
293	廿四道 1 彩層	浅鉢	口縁部	[3.2]	—	IV	山形斜切口縁、沈線	—	—	31	17
294	廿四道 1 彩層	浅鉢	口縁部	[4.0]	—	IV	変形文字文	—	—	31	17
295	廿四道 1 彩層	浅鉢	口縁部	[4.8]	—	IV	沈線	—	—	31	17
296	廿四道 1 彩層	浅鉢	口縁部	[6.5]	—	IV	R.L.	—	—	31	17
297	エバ造 1 彩層	浅鉢	休部	[4.4]	—	IV	変形文字文	—	—	31	17
298	廿四道 1 彩層	浅鉢	口縁部	[5.6]	—	IV	変形文字文	—	—	31	17
299	廿四道 1 黒色土	浅鉢	休部	[5.7]	—	IV	沈線、L.R	—	—	31	17
300	廿四道 1 ALP リッド	浅鉢	休部	[7.3]	—	IV	変形文字文、L.R・R.L	—	—	32	17
301	廿四道 1 ALP リッド	浅鉢	休部	[6.6]	—	IV	変形文字文	—	—	32	17
302	T.13造土	高环	体部	[4.5]	—	IV	沈線	—	—	32	17
303	廿四道 1 北側突出面	高环	体部下半～脚部	[4.1]	—	IV	沈線、L.R	—	—	32	17
304	T.16造土	高环	体部下半～脚部	[5.7]	—	IV	無文	—	—	32	17
305	廿四道 2 黒色土	高环	脚部	[2.4]	—	IV	無文	—	—	32	17
306	廿四道 1 彩層	高环	脚部	[3.2]	台(1.4)	IV	沈線	—	—	32	17
307	廿四道 1 彩層	高环	脚部	[4.1]	—	IV	沈線	—	—	32	17
308	廿四道 1 彩層	高环	脚部	[2.4]	—	IV	沈線	—	—	32	17
309	廿四道 1 彩層	高环	脚部	[3.2]	—	IV	沈線	—	—	32	17
310	廿四道 1 柄突出面	高环	脚部	[3.5]	—	IV	無文	—	—	32	17
311	廿四道 1 柄突出面	高环	脚部	[2.7]	—	IV	無文	—	—	32	17
312	廿四道 1 彩層	高环	脚部	[1.5]	—	IV	沈線	—	—	32	17
313	廿四道 1 彩層	高环	脚部	[5.3]	—	IV	—	—	—	32	17
314	廿四道 1 彩層	高环	脚部	[6.6]	—	IV	淡灰工字文(3本1組)斜線	—	—	32	17
315	廿四道 1 彩層	高环	脚部	[4.1]	—	IV	淡灰工字文(3本1組)斜線	—	—	32	17
316	廿四道 1 彩層	高环	脚部	[7.2]	—	IV	淡灰工字文(3本1組)斜線	—	—	32	17
317	廿四道 1 彩層	高环	脚部	[7.5]	—	IV	淡灰工字文(3本1組)斜線	—	—	32	17
318	廿四道 1 彩層	高环	脚部	[6.3]	—	IV	3本1組沈線	—	—	32	17
319	廿四道 1 彩層	高环	脚部	[6.4]	—	IV	3本1組沈線	—	—	32	17
320	廿四道 1 彩層	高环	脚部	[4.9]	—	IV	3本1組沈線	—	—	32	17
321	廿四道 2 黒色土	高环	脚部	[6.1]	—	IV	3.4本1組沈線	—	—	32	17
322	T.13造土	浅鉢	「脚部～底部」	(9.6)	4.0	IV	小波状文、変形T字文	—	—	32	17
323	廿四道 1 彩層	浅鉢	「脚部～底部」	(9.2)	(9.4)	IV	沈線	—	—	32	17
324	廿四道 1 彩層	浅鉢	「脚部～底部」	4.45	—	IV	沈線、L.R	—	—	32	17
325	廿四道 1 彩層	壹	「脚部～底部」	(5.8)	—	IV	沈線	—	—	33	17

図番	出土位置・層位	器類	部位	法量(cm)		文様の特徴		備考
				口径	底面	分類		
325	田河通1砂質	壺	口輪部～張部	(9.2)	(5.4)	IV	沈線(貼繪)	33 17
327	田河通1砂質	壺	口輪部～張部	(9.4)	(5.9)	—	IV 沈線 R L	33 17
328	田河通1Ⅱ3砂質	壺	口輪部～張部	(8.0)	(2.7)	IV	沈線	33 17
329	田河通1 黒色土	壺	口輪部～張部	(13.2)	(4.5)	—	IV 沈線	33 17
330	田河通1砂質	壺	口輪部	—	—	IV	沈線(貼繪)	33 17
331	田河通1 Alp グリット	壺	口輪部	—	—	IV	沈線(貼繪)	33 17
332	田河通1砂質	壺	口輪部	—	—	IV	沈線(貼繪)	33 17
333	田河通1 Alp グリット	壺	口輪部	—	—	IV	沈線(貼繪)	33 17
334	田河通1砂質	壺	口輪部	—	—	IV	沈線(貼繪)	33 17
335	田河通2 黒色土	壺	口輪部	—	—	IV	沈線	33 17
336	田河通2 黒色土	壺	口輪部	—	—	IV	沈線(貼繪)	33 17
337	田河通2 黒色土	壺	口輪部	—	—	IV	沈線	33 17
338	田河通2砂質	壺	口輪部	—	—	IV	沈線(貼繪)	33 18
339	田河通2 黒色土	壺	口輪部	—	—	IV	沈線	33 18
340	田河通1砂質	壺	口輪部	—	—	IV	沈線	33 18
341	田河通1砂質	壺	口輪部	—	—	IV	無文	33 18
342	田河通1 黑色土	壺	口輪部	—	—	II	瓦形(同国际状圖文)	33 18
343	田河通1砂質	壺	体部	—	—	III	蓋形T字文	33 18
344	田河通1砂質	壺	体部～底部	—	—	VI	無文	33 18
345	T.13表土	壺	体部	—	—	VI	無文	33 18
346	田河通1砂質	壺	体部	—	—	IV	L.R	33 18
347	田河通1 黑色土	壺	体部	—	—	IV	沈線 L.R	33 18
348	田河通2 黑色土	壺	体部	—	—	IV	沈線	33 18

第6表 円盤状土製品観察表

( )は推定値、[ ]は残存値

図番	出土位置・層位	器種	部位	法量(cm)			周縁加工	文様	備考	図版	写版
				長径	短径	厚さ					
349	II A14w IV a 層	円盤状土製品	ほぼ完形	4.0	3.9	0.5	打欠	R L		33	18
350	旧河道 1 砂層	円盤状土製品	ほぼ完形	4.0	3.8	0.8	打欠	L R		33	18

第7表 土偶観察表

図版	出土位置・層位	器種	部位	つくり	文様等	図版	写版
131	旧河道 1 砂層	土偶	右肩	中空	刺突文	23	12
163	旧河道 1 砂層	土偶	顎	中実	粘土貼付の上に刺突文	24	12
351	旧河道 1 黒色土	土偶	体部～腕	中実	無文	33	18
352	旧河道 1 黒色土	土偶	体部～腕	中実	胸粘土粒貼	33	18
353	旧河道 1 砂層	土偶の足	脚部	中空	無文	33	18
354	II A12w IV a 層	土偶の手	手	中実	刺突文	33	18

第8表 陶磁器観察表

図番	出土位置・層位	器種	産地	時期	釉調	胎土	法量(cm)			図版	写版
							口径	器高	底径		
1001	旧河道 1・底面	胎土目碗	唐津	16C	褐釉	灰白色	(11.1)	2.75	3.9	34	18
1002	旧河道 1・底面	碗	肥前	18C	褐釉	褐灰色	-	[1.9]	(4.2)	34	18
1003	旧河道 1・墨土上部	碗?	肥前	18C?	染付	明緑灰色	-	[1.5]	-	34	18

第9表 石器観察表

図番	遺構名・出土位置・層位	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質・产地	図版	写版
401	II A13w13層	石 鋸	2.1	0.95	0.45	0.71	頁岩 北上山地	35	18
402	II A12w13層	不定形	2.1	2.55	0.85	4.06	頁岩 北上山地	35	18
403	II A12w13層	不定形	2.8	4.0	1.1	9.64	頁岩 北上山地	35	18
404	S K02堆土	不定形	1.85	1.5	1.15	2.93	頁岩 北上山地	35	18
405	旧河道13層	不定形	4.4	1.0	0.5	1.51	頁岩 北上山地	35	18
406	遺構外 T13 II 層	石 鋸	[2.85]	1.2	0.55	1.23	頁岩 北上山地	35	18
407	遺構外 T13検出面	石 鋸	2.0	1.7	0.35	0.62	黒曜石 北上山地	35	18
408	遺構外表採	石 鋸	2.35	1.6	0.35	0.76	頁岩 北上山地	35	18
409	旧河道1Ⅲ層	石 鋸	4.0	1.25	0.6	1.52	頁岩 北上山地	35	18
410	旧河道1底面	石 鋸	6.4	2.1	0.75	6.85	頁岩 北上山地	35	18
411	旧河道1砂層 II A 3 r付近	石 鋸	6.3	2.25	1.15	8.08	頁岩 北上山地	35	18
412	旧河道1西側検出面	石 鋸	5.2	3.7	0.8	12.47	頁岩 北上山地	35	18
413	遺構外 T16東検出面	石 鋸	7.45	2.85	1.3	20.58	頁岩 北上山地	35	18
414	旧河道1検出面	石 鋸	7.6	2.1	0.85	8.84	頁岩 北上山地	35	18
415	旧河道1黒色土	石 鋸	5.15	7.75	1.35	30.63	頁岩 北上山地	35	18
416	遺構外 T13西側検出面	耳飾り	2.8	1.65	0.8	3.94	滑石 北上山地	35	18
417	旧河道1黒色土	不定形	2.24	2.2	0.5	2.99	頁岩 北上山地	36	18
418	旧河道1黒色土	不定形	2.5	3.45	1.0	8.60	頁岩 北上山地	36	18
419	旧河道1黒色土	不定形	2.75	2.6	0.85	4.56	赤色頁岩 北上山地	36	19
420	旧河道1黒色土	不定形	3.1	3.4	0.8	7.06	頁岩 北上山地	36	19
421	旧河道1黒色土	不定形	3.2	2.1	1.0	6.77	頁岩 北上山地	36	19
422	旧河道1黒色土	不定形	7.1	3.3	1.4	16.48	頁岩 北上山地	36	19
423	旧河道1砂層(底面) II A 2 r付	不定形	2.8	3.05	0.6	2.52	頁岩 北上山地	36	19
424	遺構外 T16北	不定形	2.5	3.95	1.1	10.30	頁岩 北上山地	36	19
425	遺構外 T16西側 II 層	不定形	4.75	3.15	0.75	13.43	頁岩 北上山地	36	19
426	遺構外表採	不定形	5.2	3.0	0.95	10.48	頁岩 北上山地	36	19
427	遺構外 T16西側 II 層下位	不定形	3.4	2.8	1.0	10.73	頁岩 北上山地	36	19
428	遺構外 T16表土層	不定形	3.3	4.8	0.85	9.82	頁岩 北上山地	36	19
429	遺構外 T16西側 II 層	不定形	2.45	1.35	0.75	1.83	頁岩 北上山地	36	19
430	遺構外表採	不定形	1.75	2.45	1.2	3.26	赤色頁岩 北上山地	36	19
431	II A13 v IV a 層	不定形	—	—	—	4.91	メノウ 北上山地	—	19
432	旧河道1黒色土	不定形	—	—	—	5.69	頁岩 北上山地	—	19
433	旧河道1黒色土	不定形	—	—	—	5.16	赤色頁岩 北上山地	—	19
434	旧河道1黒色土	不定形	—	—	—	7.73	頁岩 北上山地	—	19
435	旧河道1砂層	不定形	—	—	—	19.30	頁岩 北上山地	—	19
436	旧河道2黒色土	不定形	—	—	—	4.07	赤色頁岩 北上山地	—	19
437	遺構外 T12西側検出面	不定形	—	—	—	3.16	メノウ 北上山地	—	19
438	遺構外 T13表土	不定形	—	—	—	3.77	赤色頁岩 北上山地	—	19
439	遺構外 T13東側検出面	不定形	—	—	—	1.99	赤色頁岩 北上山地	—	19
440	遺構外 T16西側 II 層下位	不定形	—	—	—	6.69	安山岩 北上山地	—	19
441	遺構外表採	不定形	—	—	—	6.86	頁岩 北上山地	—	19

## 第V章 まとめ

### 1. 遺構・遺物

今回の調査で検出した遺構は土坑7基、柱穴状土坑154基、遺物包含層1箇所である。

〈土坑〉 調査区北側～中央から7基検出したが、前回のほ場整備時による削平により残存状況は不良である。平面形は円形ないし梢円形を呈している。土坑一覧表を第10表に示したが、はっきりとした傾向は見いだせなかつた。また、埋土中より繩文土器ないし弥生土器が出土している土坑があるが、埋土の状況から見て確実に遺構に伴う遺物であるかは疑問が残る（特にSK02）。

第10表 土坑一覧表

遺構名	径(m)	深さ(cm)	長軸方向	平面形	埋土色調	出土遺物	備考
SK01	2.39×1.57	16.0	W-25°-N	梢円形	黒褐・にぶい黄褐色	弥生土器	
SK02	1.68×1.39	33.0	-	円 形	黒色	繩文土器	
SK05	1.40×0.87	19.0	N-38°-W	梢円形	褐色	-	
SK06	3.60×2.80	65.0	W-1°-N	梢円形	黒色・褐色系	弥生土器	
SK07	1.37×0.87	40.0	W-44°-N	梢円形	にぶい黄褐色・灰黄褐色	-	
SK08	2.03×1.31	39.0	W-21°-N	梢円形	にぶい黄褐色	-	
SK09	1.63×1.60	19.0	-	円 形		-	

〈柱穴状土坑〉 調査区中央を中心に154基検出したが、掘立柱建物跡を構成する柱穴は検出されなかつた。遺物は出土していないことから時期は不明である。

〈遺物包含層〉 調査区中央南側より約400m<sup>2</sup>を検出した。最大厚は50cmを測る。大きく3層に細分され主に弥生時代前期の遺物が出土しているが、出土量が少ないとことと残存率が悪いことなどが重なり、層位的な遺物の取り上げはしたもの、残念ながら層位的に言えることはほとんどない状況である。また、包含層中からは遺構は検出されていない。

### 2. まとめ－要約－

今回の調査では弥生時代の遺物包含層と時期不明の土坑・柱穴状土坑・旧河道が検出された。遺物包含層は洞状の緩斜面に斜面上位から遺物が流入して形成され、その底の部分が開田時に削平を受けずに残ったものであると思われる。調査区内からは弥生時代の遺構は検出されていないことから、開田時に削平されたか、調査区周辺、特に調査区北側の斜面上位面に該期の集落があった可能性が想定されるが、推測の域を出ない。今回の調査で出土した主に弥生時代前期の遺物は当該地域においては類例の少ない資料であるが、層位的に取り上げはしたものの中河道より出土した遺物が大半で、プライマリーな出土を示した遺物包含層出土遺物の出土量が少ないとことと残りが悪かったため、層位的に言えることはほとんどなく、有意義な分析が出来たとは言い難い。今後の調査成果に期待しつつ、資料の蓄積を待って再度検討し直したい。

# 写真図版



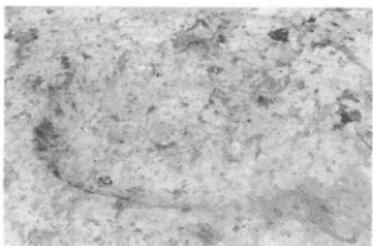


調査前風景

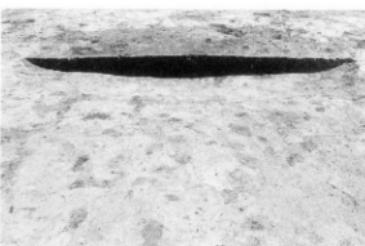


調査終了全景

写真図版 1 調査前風景・調査終了全景



SK01 完掘 (S→)



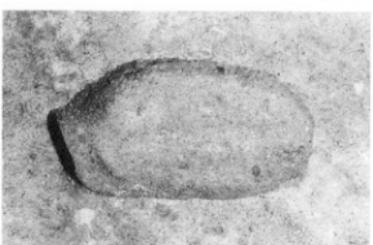
SK01 断面 (S→)



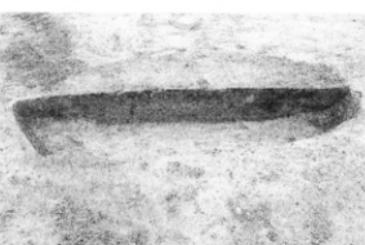
SK02 完掘 (S→)



SK02 断面 (S→)



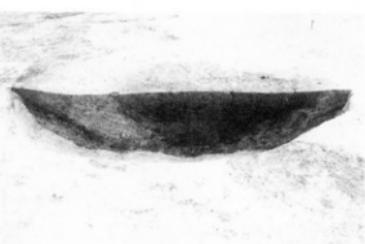
SK05 完掘 (S→)



SK05 断面 (S→)



SK06 完掘 (S→)



SK06 断面 (S→)

写真図版 2 土坑(1)



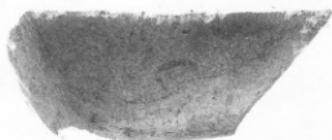
SK07 完掘 (S→)



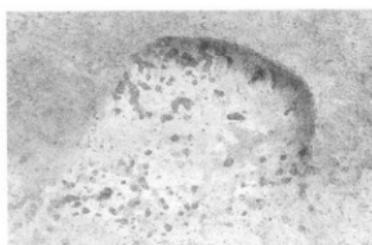
SK07 断面 (S→)



SK08 完掘 (S→)



SK08 断面 (N E→)



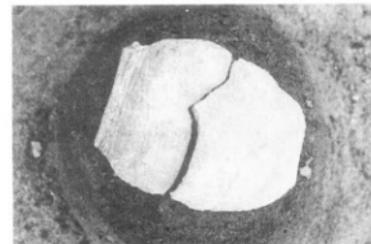
SK09 完掘 (E→)



SK09 断面 (S→)



遺物包含層遺物出土狀況

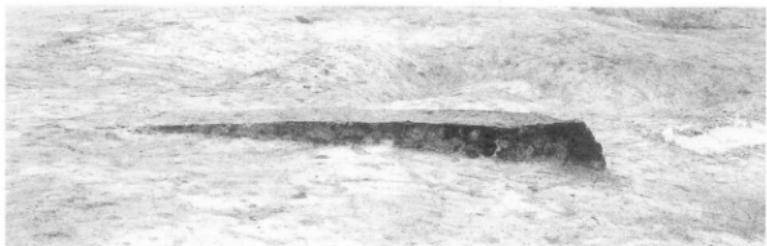


遺物包含層遺物出土狀況

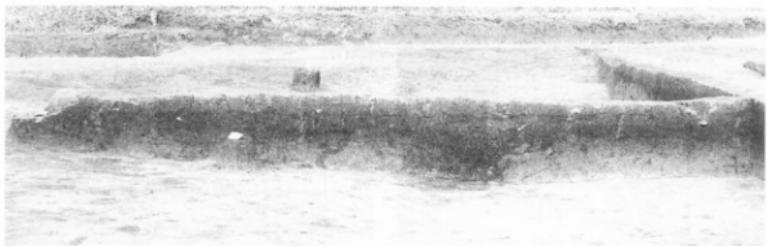
写真図版 3 土坑(2)・遺物包含層



全体 (W→)



II A12w グリッド付近 (W→)



II A13w グリッド付近 (W→)



II A14w グリッド付近 (W→)

写真図版4 遺物包含層南北ベルト断面(1)



II A15w グリッド付近 (W→)



II A16w グリッド付近 (W→)

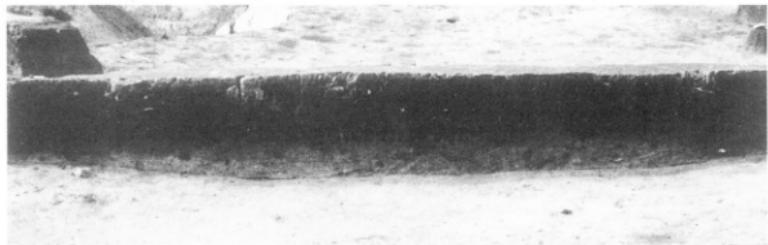


II A17w グリッド付近 (W→)



II A18w グリッド付近 (W→)

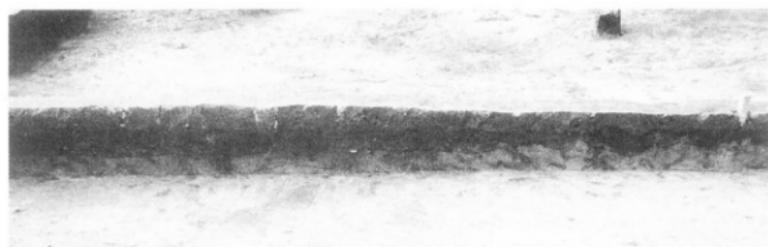
写真図版5 遺物包含層南北ベルト断面(2)



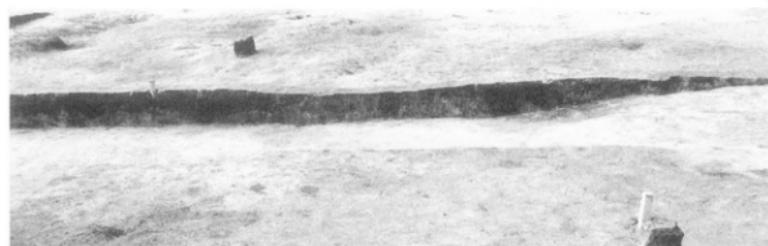
II A13w グリッド付近 (S→)



II A13w・x グリッド付近 (S→)



II A13x グリッド付近 (S→)



II A13y グリッド付近 (S→)

写真図版 6 遺物包含層東西ベルト断面



柱穴状土坑① (S→)



柱穴状土坑② (S→)

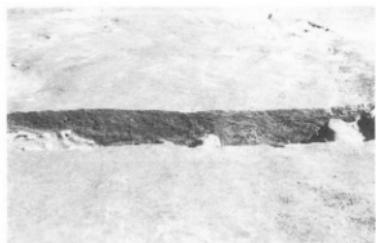
写真図版 7 柱穴状土坑



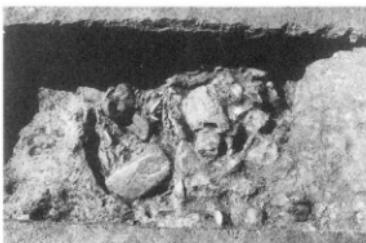
旧河道1 全景 (N E →)



旧河道1 断面 (S E →)



旧河道1 断面 (W →)



旧河道1 遗物出土状况



旧河道2 全景 (S →)



旧河道2 断面① (S →)

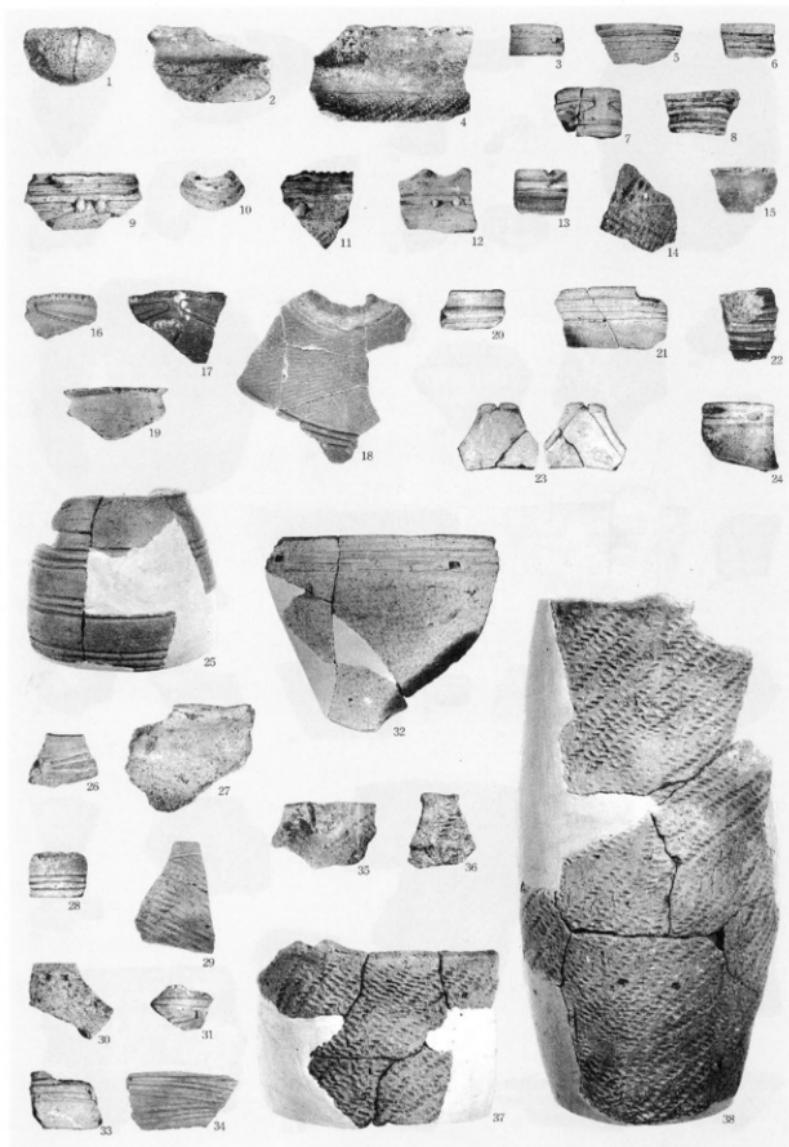


旧河道2 断面② (S →)

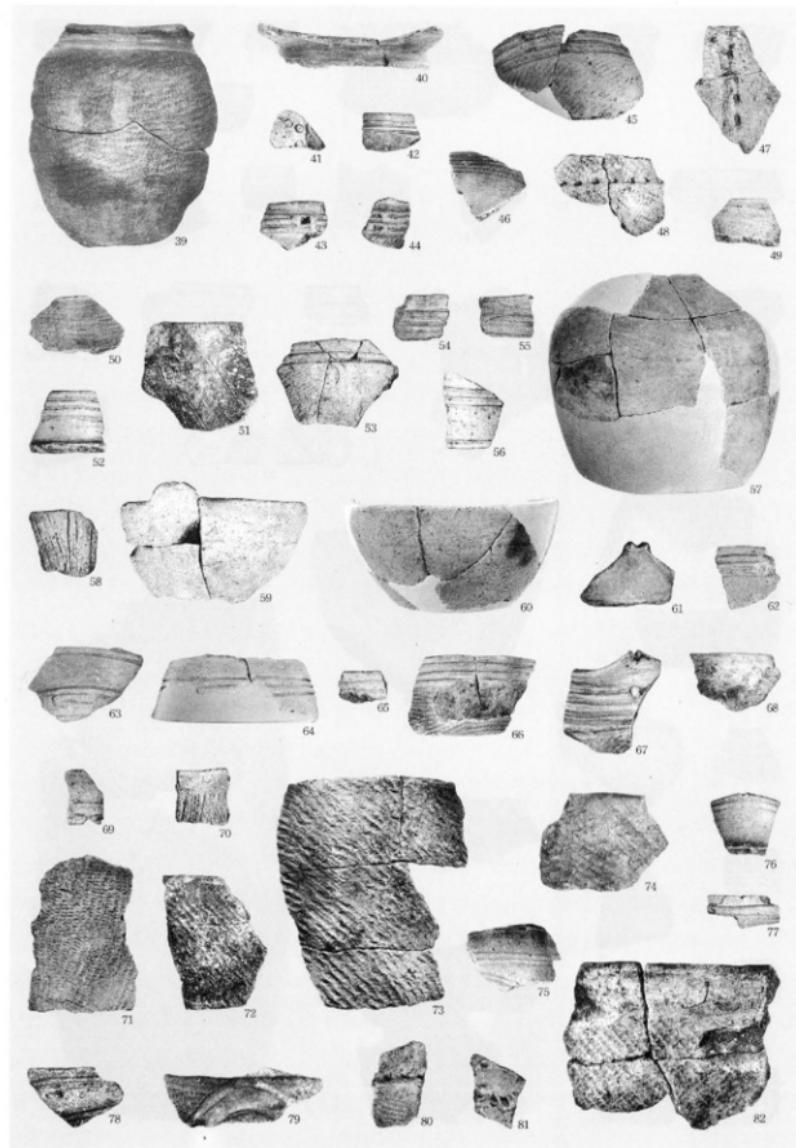


旧河道2 断面③ (S →)

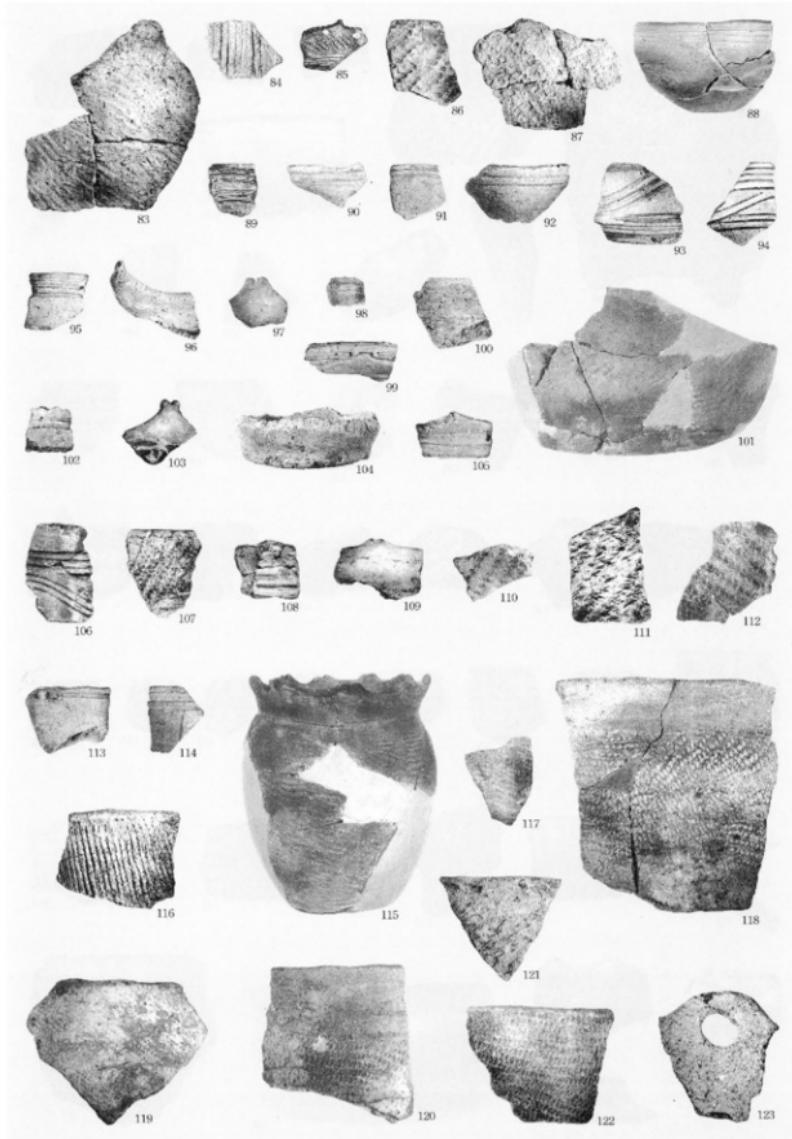
写真図版 8 旧河道



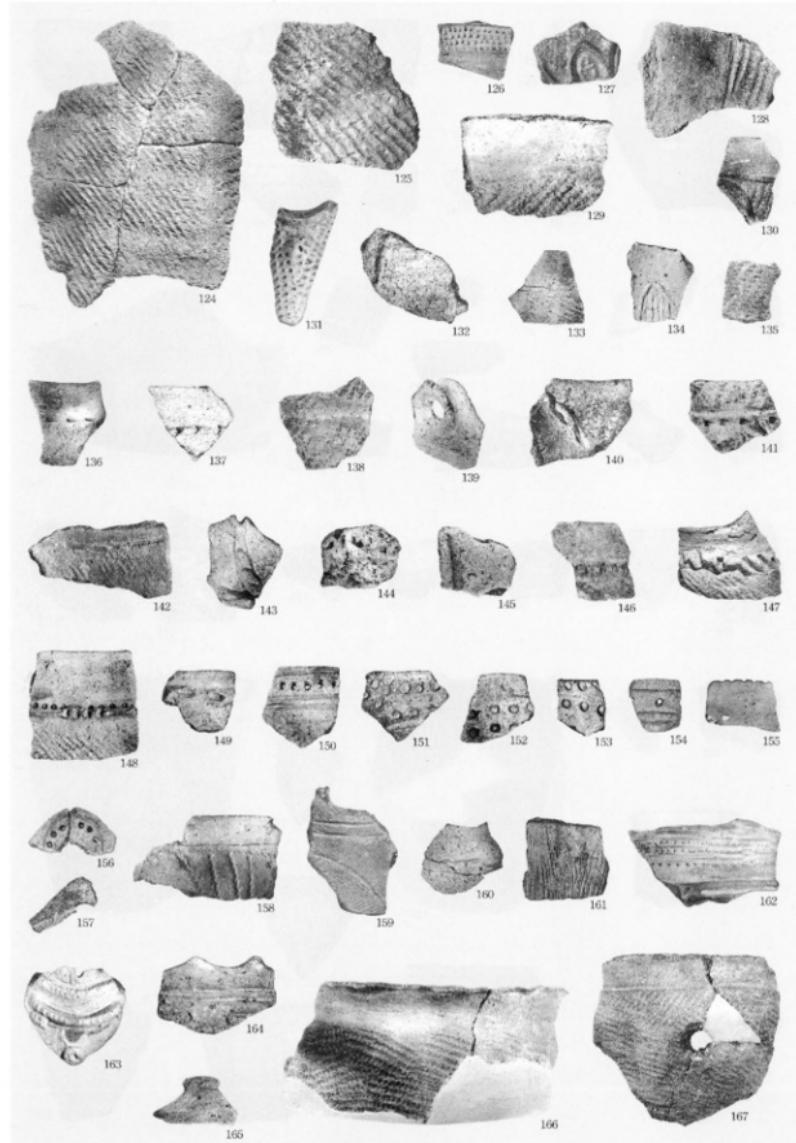
写真図版9 遺構内外出土遺物(土器1)



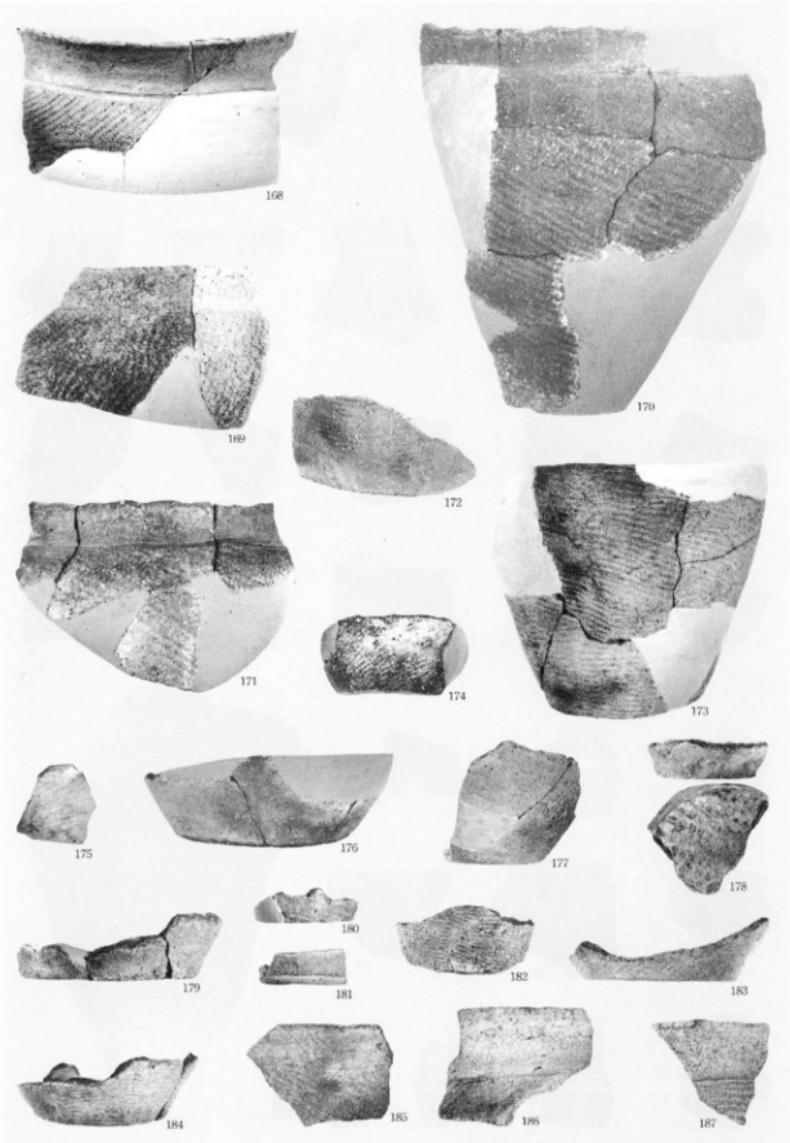
写真図版10 遺構外出土遺物(土器2)



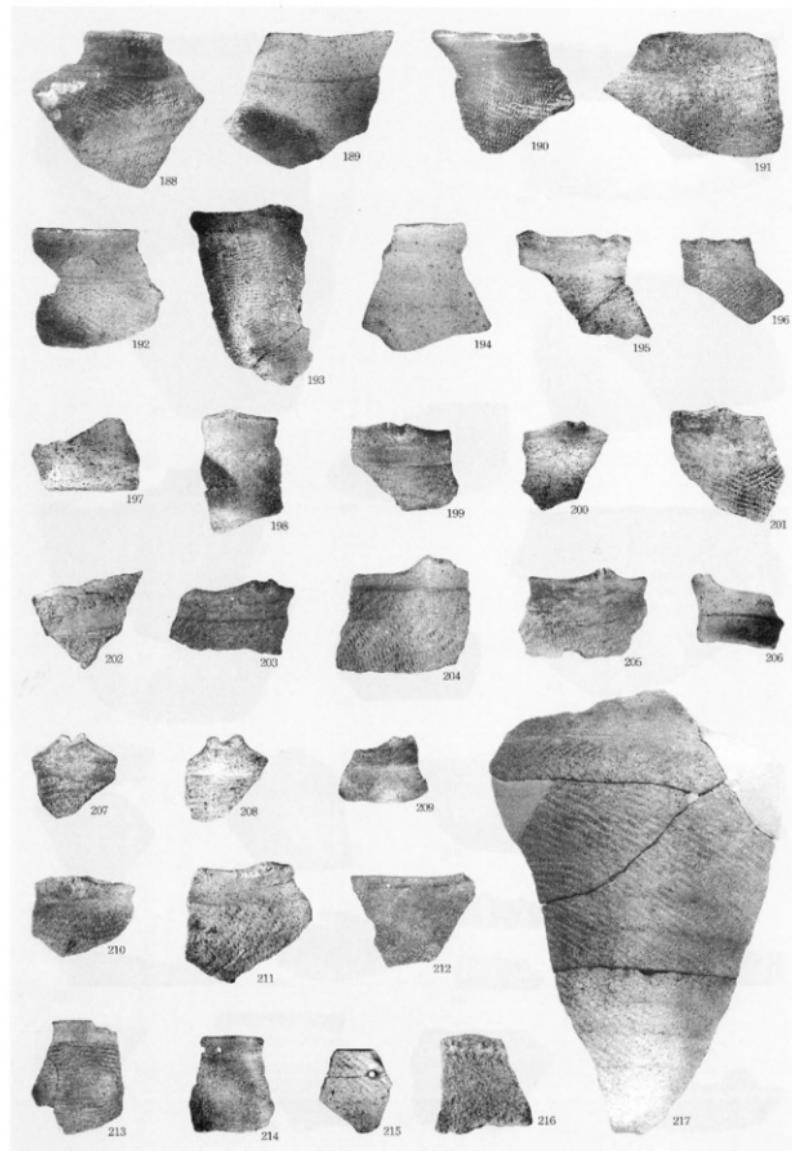
写真図版11 遺構外出土遺物(土器3)



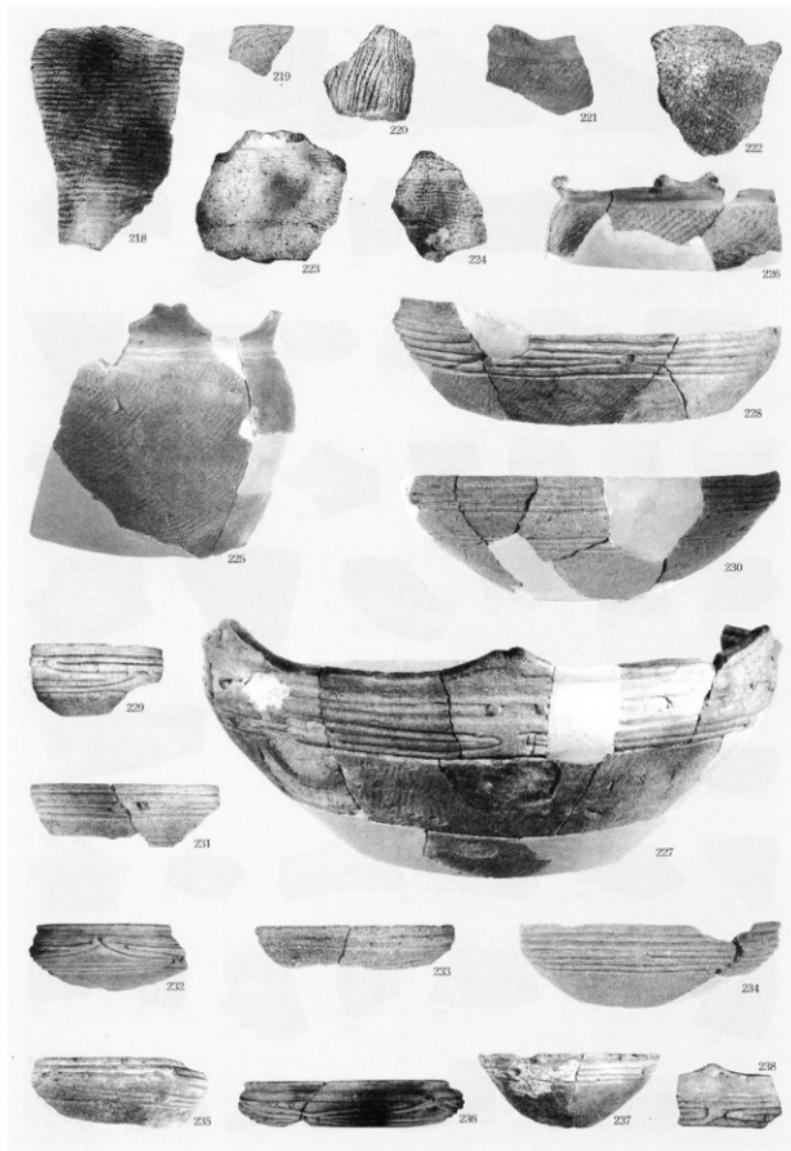
写真図版12 遺構外出土遺物(土器4)



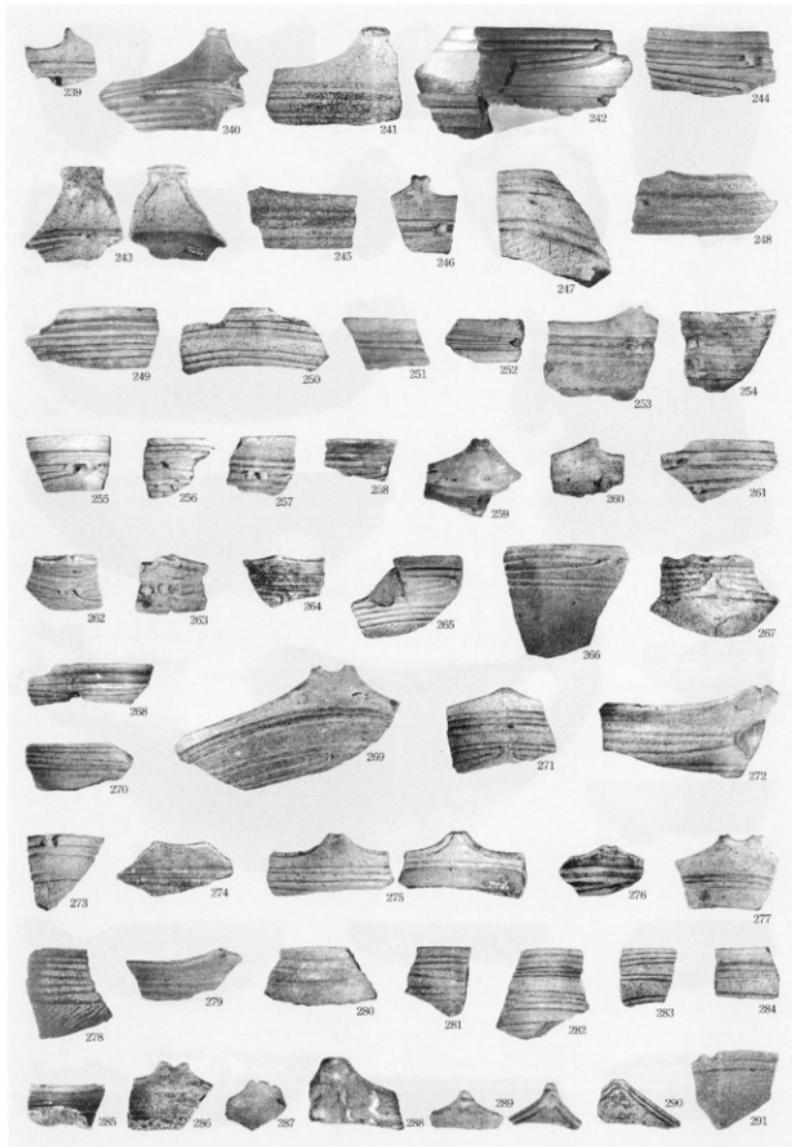
写真図版13 遺構外出土遺物(土器 5)



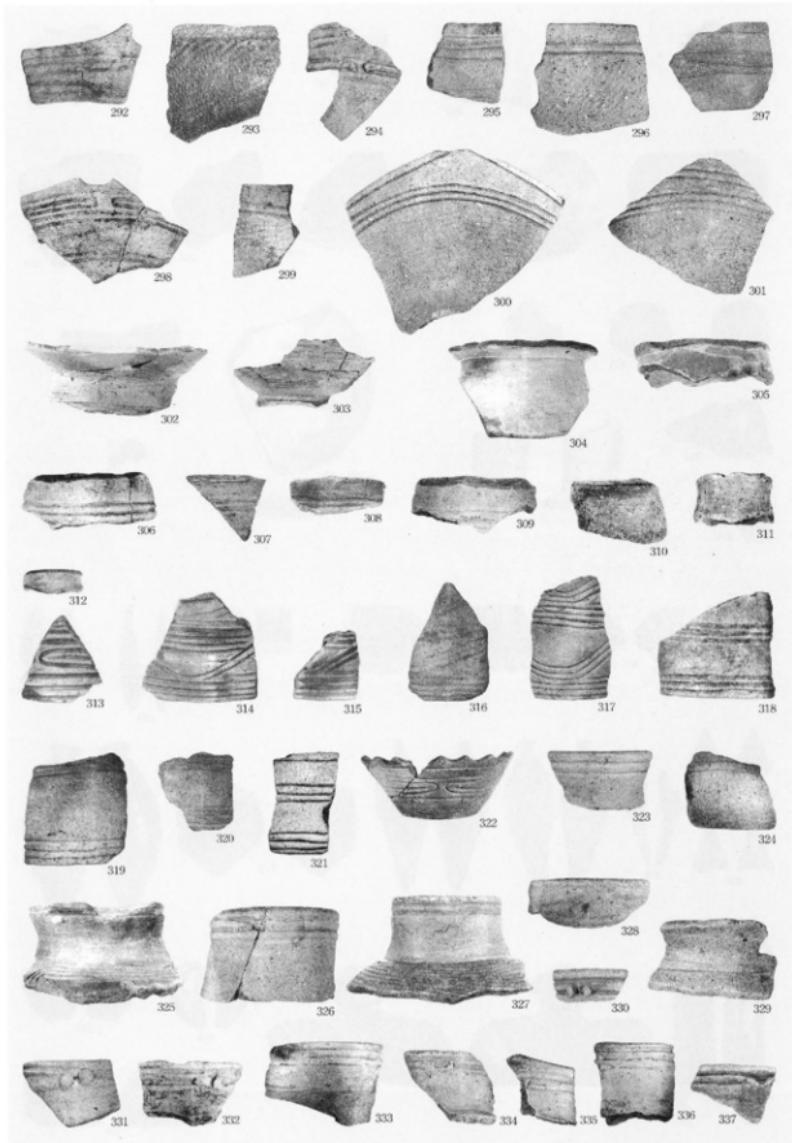
写真図版14 遺構外出土遺物(土器 6)



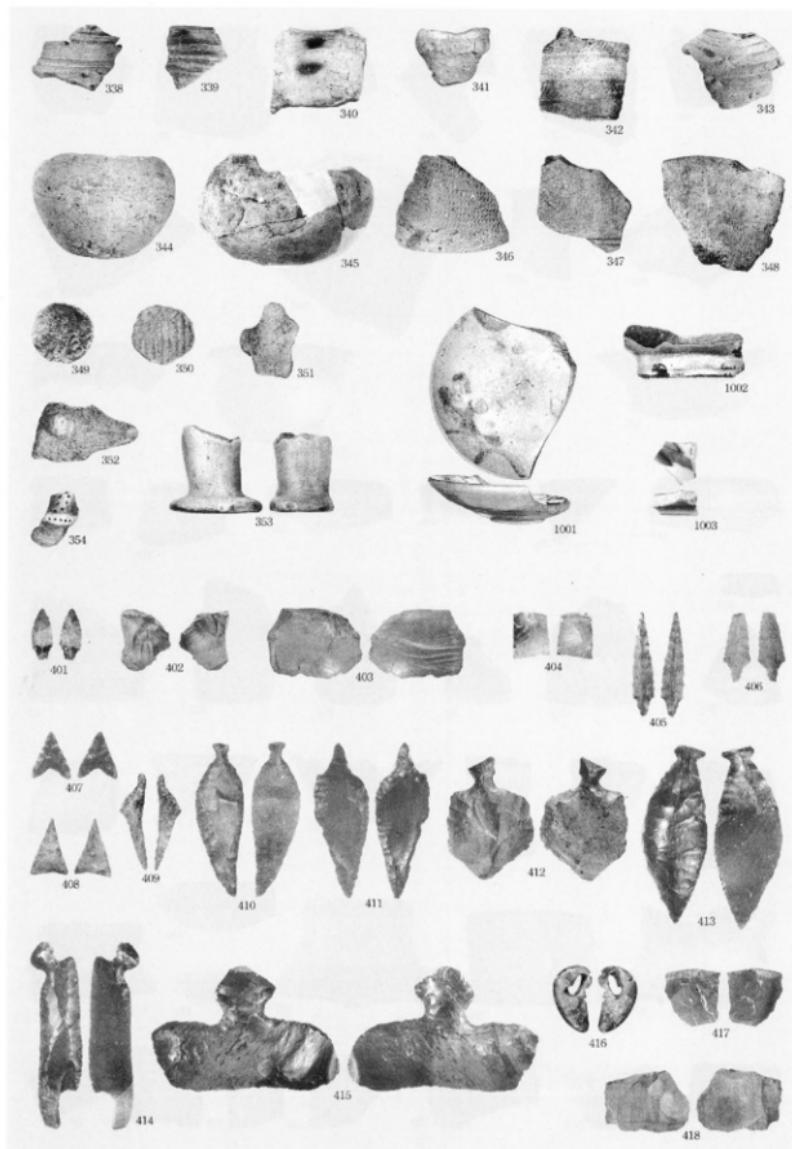
写真図版15 遺構外出土遺物(土器 7)



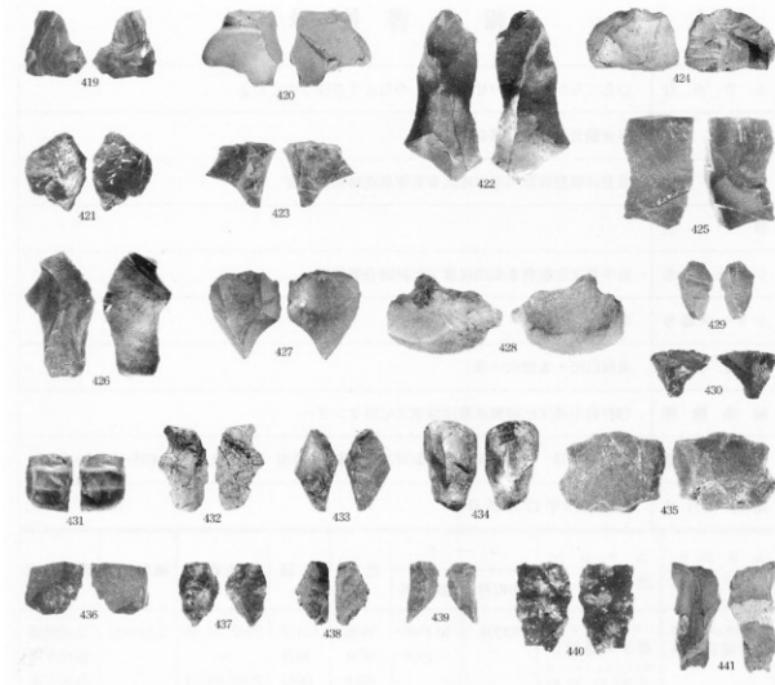
写真図版16 遺構外出土遺物(土器 8)



写真図版17 遺構外出土遺物(土器 9)



写真図版18 遺構外出土遺物(土器10・陶磁器・石器)



写真図版19 造構外出土遺物(石器2)

## 報告書抄録

ふりがな	ひらくらかんのんいせきはっくつちょうさほうこくしょ							
書名	平倉観音遺跡発掘調査報告書							
副書名	県営ほ場整備鶴川左岸地区事業関連遺跡発掘調査							
卷次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第448集							
編著者名	島原弘征・太田代一彦							
編集機関	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡第11地割185番地 TEL 019-638-9001・9002							
発行年月日	西暦 2003年12月25日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ひらくらかんのんいせき 平倉観音遺跡	いわてけんとおの 岩手県遠野市 かみごうちょうからくら 上郷町平倉 せい ちねきあさ 第47地割字 かいたん びんち 観音21番地ほか	03208 -1099	MF66 16分 46秒	39度 35分 00秒	141度 ~ 2002.05.31	2,600 m <sup>2</sup>	ほ場整備 鶴川左岸 地区工事 に伴う緊 急発掘調 査	
				世界測地系				
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
平倉観音遺跡	集落跡	縄文時代			縄文土器 石器・石匙			
		弥生時代	遺物包含層	1箇所	弥生土器			
		時期不明	土坑 柱穴状土坑	7基 154基	陶磁器破片 鉄製品			

平成15年度 (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員名簿

所長 木村 昇

副所長 平野 允苗

〔管理課〕

課長	喜沢 正吾
課長補佐	山岸直美
主査	中嶋賢一
主事	猿橋幸子

嘱託	高橋 照雄
"	湯沢邦子
"	沼田テル子
"	伊藤滋子

〔調査第一課〕

課長	佐々木 勝
課長補佐	佐々木 清文
文化財専門員	金子 昭彦
文化財調査員	吉田 充
"	亀 大二郎
"	野 中真盛
"	新妻伸也
"	阿部勝則
"	杉沢 昭太郎
"	西澤 正晴
"	村木 敏

文化財調査員	北村 忠昭
"	八木山 治
"	丸山 浩
"	北田 順
"	島原 錦
期限付調査員	坂弘志
"	小林 順
"	小針 大
"	藤原 大
"	太田 一彦
"	新井田 えり子

〔調査第二課〕

課長	三浦 謙一
課長補佐	中川重紀
"	高橋義介
文化財専門員	小山内 透
"	金子 佐知子
"	濱田 宏
文化財調査員	赤石 登
"	阿部 澄
"	水上 明博
"	阿部 憲淳
"	早坂 隆也
"	小松 德也
"	阿部 幸吾
"	窓岩 伸吾
"	亀澤 盛行
"	飯坂 一重
"	鈴木 裕明
"	林 黙
"	阿部 孝明
"	羽柴 直人

文化財調査員	星 雅淳
"	佐藤 之一文
"	星 幸浩
"	溜 浩二郎
"	本 多準一郎
"	丸 山美和
"	福島 正拓
"	米 田拓晋
"	須原 又美
"	川 又綸
"	中村 美淳
"	村田 拓
期限付調査員	(村上)
"	斎藤 麻紀子
"	石崎 高臣
"	吉田 和里
"	立花 裕敦
"	江藤 寛
"	駒木野 智寛

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第448集

## 平倉觀音遺跡発掘調査報告書

県営ほ揚整備鶴川左岸地区工事関連遺跡発掘調査

印刷 平成15年12月17日

発行 平成15年12月25日

発行 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地

TEL (019) 638-9001・9002

FAX (019) 638-8563

印刷 有限公司 内 海 印 刷

営業担当所 〒026-0875 岩手県盛岡市清水町8-8-108

TEL (019) 622-0288

本社 〒026-0841 岩手県釜石市上中島町4-2-4

TEL (0193) 23-5511

